

草茅危言 二

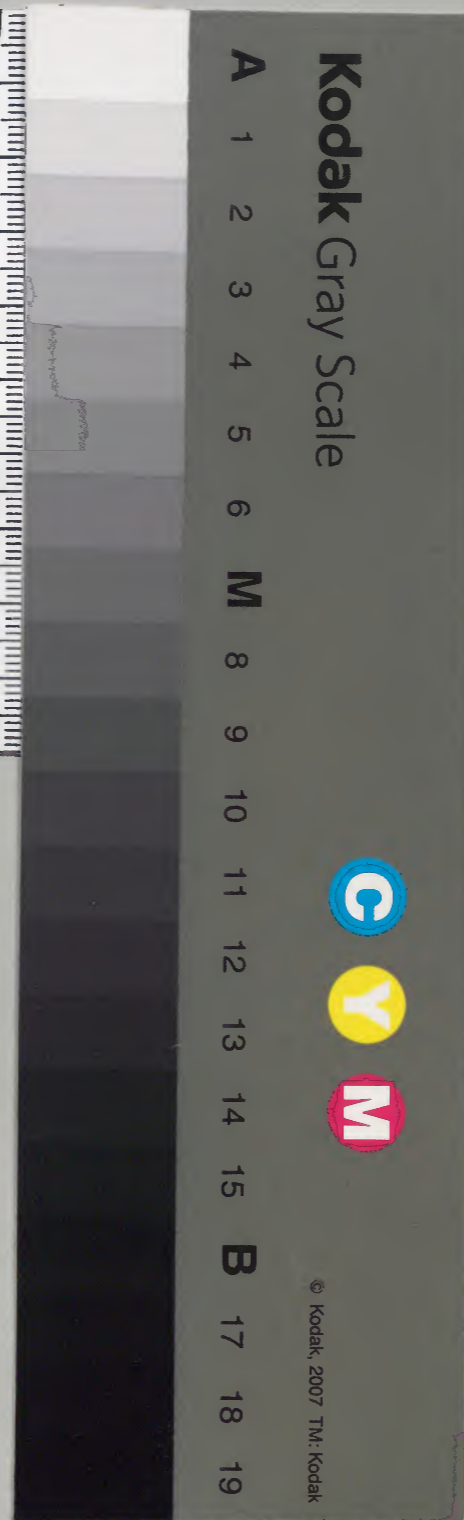
農務省  
和  
圖書  
第五八八號  
共五册

大政官文庫  
和書門  
二九  
九  
函架册

内閣文庫  
和  
二九  
函架册

内閣文庫  
番號 和 11029  
册數 5 ( 2 )  
函號 182 384

經濟



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

萬葉集

章茅危言

危言卷之二

明治十二年購求

目錄

一 御麾下

一 奉行代官

一 武門叙任

一 御番城御普請

一 武門養子

一 武門元版

一 衣服制度

一 學技

一 儒者



出修諸叢書

章茅危言卷二目錄

〇一

一 外船互市

一 朝鮮

一 琉球

一 蝦夷

草茅危言卷之二

御麾下ノ事

世祿ハ聖人ノ法ニテ御當家封建ノ治定リタル已來  
 侯國ニテ普ク世祿ノ法行ハレ今日ニ至リ不刊ノ典  
 トス先王ノ遺意ニ叶ヒテ甚タ美事也且又東照宮  
 ノアル時ノ上意ニ世祿ハ良法也タミソノ先代ノ勲  
 勞ニ酌ヘルノミニ非ス良人ノ子不肖ナリトモ其不  
 肖ノ子ニ又ヨキ人モ出ヘシモシ一人ノ不肖ヲ以テ  
 此ヲ捨テハソノヨキ子孫アラントキ惜ムヘシト寛  
 仁大度ノ御心ハ恐ナカラ有難キ御事サテ又國初已  
 來コノ世祿ヲ子孫世ニ一粒モ減少ナク下ニ置ル

出參齋藏書

草茅危言卷之二

一

御定ノ是有七寛大ナル御定也諸大藩モ皆是ニ倣ヒ  
同シク寛大ヲ示サセラルニトナリ来リタリサレ  
氏世ニ是ヲ位牌知行ト名付テ世祿ト云ハ是コノミ  
ノヤウニ心得ルハ誤レリ子孫ノ賢不肖ニ從ヒ祿ノ  
進退増減ハアリ内ノコニテ何分イカヤウニテモ祿  
ヲ離レヌタトヘハ代々ノ不肖ト不幸ニヨリ次第ニ  
祿ヲ減シ千石ハ百石ニ下リ二百石三百石ハ五口十  
口ノ俸ニ落ル氏庶食ハ離レヌ格別ノ大罪ナクハ  
没収放逐ノコハナク或ハ親ニ罪アリテ隱居蟄居ヲ  
命セラレテモソノ子ハマハリ相應ニ召遣ハルニ類  
小諸侯マテ皆然リ是皆世祿也モシ理ノ當然ヲ以テ

イハミ既ニ才不才ニテ官ノ進退アレハ賢愚ニ就キ  
テ祿ノ増減モ有ヘキ筈也右寛大ノ制ハ上ニ在テハ  
御仁慈ノ美意至極ノ御コナレ氏大平ノ久シキニ因  
テトニ於テハソノ美意ニ乖カルニヤフニ成ユク  
有兩疏ノ子孫賢而多財則損其志愚而多財則益其過  
ト云モノコレ也動キナキ常祿ヲ恃ム心ヨリ英敏ノ  
資ナルモ勤勞ヲ盡シコノ上立身モ骨切ナルコト  
身ニ當リヌル事業ヲ厲ム志ナク又凡鄙ナル質ハ游  
惰放逸ヲ專トシ咎ヲ受ヘキホトノ罪ヲ犯サ子ハ事  
濟タリト人徒ヲニ一生ヲ送ラルニアリカニル人ノ  
家ニ生レ出タル子孫ハ誰教ル人モナク何一ツ學ニ

世セスメオノカマニ長スレハ一カトノ頑卒愚駭  
トハニニナリテ又ソノ子孫ヲ同シ方ニ長スレハ代  
ミノ尸位素餐ニテ國恩祖恩ヲ空ニクナシスツル  
向ニ惜ムヘシ是豈上ノ美意ニ乖クノ甚シキ者ニ非  
スヤ醫員ノ業ニ於テハ此風尤甚シト聞及ヘリソレ  
故國家ニ才ヲ擇マセラルミハ民間ヨリ舉用ラレサ  
ルヲ得ス其舉ラレタル人一代ニテ常祿定マレハ  
此子孫モ又皆、右ノ如クナルヘシ既ニ醫員耳ニ非  
ス正徳間ニ名儒五六人新夕ニ登庸アラセラレシニ  
其跡トテ誰一人名ヲ聞タルヲナシ其他ハ類推メ知  
ルヘシ萬代無疆ノ御事ナルニ次第ニカクナリユキ

テハ折角上ノ慈仁ノ美モ惠ンテ費スヲ冗ニ落テ勿  
體ナキ御事ナルヘシ全體限アル天下ノ民カヲ以テ  
夥シキ無用ノ僧尼游民ヲ養ヒ來リタル世界ニ又有  
用ノ士大夫マテ尸祿無用人ハカリニナリユカン  
深ク嘆スヘシ此弊ヲ救ハンニハ唯今ヨリソノ制有  
ヘキニヤ今日御新政ノ美ヲ以テ追々士風モ振起ノ  
勢アレ氏年來游惰ノ習ヒ殊ニ大勢ノヲナレハ中  
期月ニ整頓スヘキニ非サルヘシソノ美ヲ助ケテサ  
シアタリ舊弊ヲ改革スヘキハ祿ノ増減ノ法ヲ立サ  
セラルニ有ヘキカ試ミニ申サハ只今有來リタル  
祿ヲ本祿ト立テ人々繼目ノ時其頭ニヨリトクト聞

出參齋叢書 卓考危言卷二

抄作 家督ノ人十六七歳以上ニテ居家孝弟ナルト閨  
門ノ正シキト文武ノ業年齢相應ナルトコノ三條揃  
ヒタルハ頭ヨリ別ニ言上有テ本祿ノマニ繼目仰セ  
付ラレ三條ノ内一ツ三ツ缺タルカ全ク無分ハ別ニ  
言上アルヘカラスコレ不肖子故其甲乙ヲ考ヘ本祿  
十分ノ一二三マテヲ減シテ家督ヲ命セラレ先代致  
仕ノアト目モ同シ十六七歳以下當歳マテ家督ハ當  
小可ノ御用モナキ身分是ハ不幸ノコ故ソノ齒ニ從  
ヒ十ノ一二分ヲ減セラレ成長ノ上ニカノ三條揃ヒ  
又右ノ不肖子モ操ヲ改メ頭ノ言上アラン時一分ノ  
減アリシハ本祿ニ復シ二分ハ一分三分ハ二分ニ追

復スヘシ一生サセルコモナクハ其減シタル高ヲ  
本祿トシテ又ソノ跡目ヲ論スヘシ代ニ不肖不幸十  
ト打續キ追ニ削レテモミナソノ現在ノ祿ノ一二分  
ノ減少故イツマテモ祿ノ盡ルト云フナシ是皆世祿  
ノ慈仁ニ泄ルコナシサテ士大夫ノワケアリテ終身  
無役ノ人ハ格別サモナクテ隨分役付モ有ヘキ家ノ  
代ニ不肖ニテ終ニ一度ノ御用モ勤メサル分ハソノ  
父祖ノ年數ヲ考ヘ一ツノ年限ヲタテ何十年ノ間ツ  
ヒニ御用ナキハ其年ニ滿タル日ニ祿ハ半減ニ削ラ  
ルヘシコレ其人ヲ厲シ後ヲ懲シ尸位素餐ヲ減スル  
爲ナリ此類醫員ニ尤多カルヘシカク命了レハ年數

出修齋叢書 草莽危言卷

ノシレタルト故急ニ善ニ遷リ愆ヲ改ムルノ便モ  
有ヘシソレニテモ警策モナキハ寔ニ是非モナキト  
ナルヘシ又當身ニ罪アリテ小普請ニ入りタル人ハ  
皆ニ祿ノ千二百六七分モ削ラルヘシ其餘ハ恤刑第  
議ニ詳カニセル通りニテ還祿ノ日有ヘシサテ又良  
材偉器アリテ擇ヲ受テ役付アリ追々轉任昇進ノア  
ラハ其度ニ祿ヲ十分ノ二三ヨリ以上宜ヲ揣テ加  
増有ヘシ是ハ全ク其人ノ働ニテ代々ノ本祿ニ非サ  
レハ死後ハ本祿ニ返ルヘシ但其人ノ功ヲモ録シ兩  
度ノ加恩有シハ初増ヲ本祿ニ立三度ノ加増ハ第二  
増ヲ以テ本祿トシ跡目ハ其本祿ト立タル高二テ論

スルト上文ノ如クナルヘシモシ致仕ナラハソノ増  
祿ハミナ養老ノ資ニ給賜アルヘキニ又大抵是等ノ  
趣ニテ勸懲ノ筋ワカリタラハ士風ヲ振フニ便リ有  
ヘシ増減凡其宜ヲ揣ルヘキトナカラ總メ減ハムシ  
口少ナキニ從ヒ増ハムシ口多キニ從フヘシ是又聖  
人ノ善ヲ善トスルハ長ク惡ヲ惡トスルハ短キノ遺  
意ニモ叶フヘシ尤モ減ハ少ナクテモソノ人多ク増  
ハ多テ其人少ナケレハ國計ニ於テハ盈アリテ縮ハ  
ナカルヘシ故ニ是モ序ニ冗費ヲ省クノ要ヲ得ヘシ  
故ニ此制モシ行ハレ數年ノ上ニテハ此國計ヨホト  
餘裕アルヘシコノ餘裕ヲモテサキニ論スル如ク小

皇極經世一  
卷二  
五

諸侯ノ庶子ヲ願ヒニ從召テ祿セラレシトハ容易ナ  
 ルヘキコトニヤ  
 一昇平久キヨリ自ラ侈靡ノ風長メ士大夫ノ窮困往  
 々回リタル所ニ今又此減祿ノ沙汰ニ及ヨヒテハ其  
 窮何如スヘカラストノ評モ一通ニテハ有ヘケレ  
 氏是然ラス愚ノ試ニ此法ヲ設タルハ曾テ士大夫ノ  
 窮ヲ顧スメ強テ聚斂メ國家ニ附益セントハ非ス  
 マツソノ窮ヲ救且士風ヲ振ヒ起セニ爲也總メ常祿  
 有ハ窮スル筈ハナキコトナレ氏祿不期侈ト有如ク皆  
 コノ一路ヨリ誤ルコト也此事由テ來ルモ久シキコト也  
 書ノ畢命ニ世祿之家鮮克由禮以蕩凌德實悖天道敝

化奢麗萬世同流ト見エタリ是古今旬二同一流也入  
 ニ禮ニ由テ德ヲ慎奢麗ヲ以テ戒トセハ何トメ天ニ  
 悖リ化ヲヤフルコトノ有ヘキ銘ニ其分ヲ顧ミス二三  
 百石ノ人ハ四五百石ノ暮シヲ摹疑シ七八百石ノ家  
 少千石以上ノ體ヲ庶幾スルヨリ右ノ同流ニ落込  
 ナリ今増減ノ方ヨリ繼目コトニ一警策ニ急ニ家格  
 ヲ變ニ千石ヨリ八百石ニ下リタルハ六百石ヲ以テ  
 暮シヲシテ五百石ヨリ四百石ニ落タルハ三百石ヲ  
 以テ暮シヲ立ルヤウニセハ初年ヨリ餘裕アルヘシ  
 又身ヲ慎ミ業ヲ厲メハ忽チ本祿ニカヘルヘキ日當  
 ノ有コトナレハ誰レモソレヲ怠惰スヘキニ非ス即チ



仕風ノ改マル山口ナルヘシコレ増減ヲ以テ士大夫  
 ヲ鼓舞スル也利ヲ好ミ害ヲ惡ムハ人ノ通情ナレハ  
 其利心ヲ誘ナフヤウナレ氏左ニ非ス學ニ疎ク義ニ  
 暗キ人ハ先ツ利害ノ賞罰ヲ以テ率ユルヨリ外ハ十  
 シソノ人モ賞ノ利ニ就テ罰ノ害ヲ避ントスルヨリ  
 身ヲ慎業ヲ務ムル心モ出來テ稍々學ニ志アラハ次  
 第二人道ノ重キヲ知り仁義ノ美ヲ覺ル様ニナリ我  
 知ス正路ニ入ルヘシ宋ノ張思叔少キ時貧賤ニテ一  
 向學ヲ知ラス傭夫タリシニ邑官ノ行列ヲ夕テ唱道  
 メ通ルヲ羨マシク思ヒ彼人ハ何トシテカミル身分  
 ニナリシヤト傍人ニ問シニ彼ハ書ヲ讀ミ學問メカ

夕ナリシトヨト答ヘシカハ然ラハ我モ書ヲ讀ント  
 テ初テ學ニ志シタルハ全ク利祿ノ心ニ出タル也幸  
 ニ程子ノ道ヲ唱ラルニ時ニ遇テ程門二人テ學ヲ務  
 大川祿ノ初念ヲ忘レ正學ノ大儒トナリ尹揚游謝ノ  
 諸賢ト肩ヲ並ヘタリ世ニハカミル事多キモノ也况  
 ヤ祿ノ増減ハ先王勸懲ノ大柄ナレハ利ヲ以テ誘ナ  
 フノ嫌疑ハ無カルヘシ  
 一近來御改政ニ付テ士大夫一統ニ文武ノ業ニ興起  
 プレ由有カク御ト也追々人才モ成立シ國家ノ御  
 爲ハ此上モ大キ御トト喜ンテ寐サルモノ有リ但シ  
 武ハ其本職故下地ニ心掛ケノ有モ多ク其厲モ出來

易ク又師トナル人モ多カルヘケレモ文ハ一向下地  
ノナキハ多ク師ヲ得テモ難カルヘケレハ自ラ一旦  
奮發アリテモ間斷ニ至リ易カルヘシ尤國家ニ學校  
ノ御設々兼テ備リ林家是ヲ托ラルレハ誰トテモ先  
ツソノ方へ出席アルヘキトナレモ何分夥キ士大夫  
ノ中上下士ノ未迄ハ數限リモ知レ難キ程ノトナレ  
ハ林門ノ力程多ク士ノ教授アリモ行届クヘキニ非  
スソレユ正銘ニ手寄りノ儒士ヲ頼ミ講習有モ聞及  
リソレトテモ數人知レタル儒門ノト且又廣キ都下  
ノ事故人ニ志ス方アリトテモ遠方故力ニ及ヒ難キ  
モ多カルヘシ殊ニ今來ヲ教育スルコト後日ノ爲第一

人備ヘナレハ幼年人別々遠路ノ往來人ナリ難ク又  
句讀ヲ授クルニ於テハ一人ニテ百人ニ授ルコトハ日  
カモ人カモ續ク者ニ非故ニ試ニ此法ヲ思フニ古代  
ノ州閭鄉黨ニ悉ク庠序ヲ設クル如ク其形ヲ摸メテ  
大夫ノ館舎ノ方角ニヨリ祿ノ高低打マセテ七八十  
人又ハ百人百四五十人マテテ一組トシ其組中ニ狹  
カラヌアキ長屋ナト見立テ講習ノ場所トシ都下ノ  
浪人儒生ハ云ニ及ハス諸國ヨリ入龍ヲル學者ヲ擇  
ミ講師句讀師又手跡ニ長シタルナト兩三輩ヲ迎ヘ  
一組ノ士大夫出席シ其子弟ヲ導ラニ托シ組中祿ノ  
高低ニ從ヒ斗升ノ穀ヲ聚メ合セテ師儒ノ奉養束修

人料トセハサシテ人ノ費モナクテ貧學モ肩ヲ息  
フヘシ右ノ如クニナリタラハ大分ノ組數ニナルヘ  
ク當分ハ師儒ノ火不足ナリ氏諸國ニテ相應ニ學問  
モ出來テ今一トキハ都下ニ出テ學ヒタク思フ人貧  
學ニテ游資ニ事ヲ欠タル類コレヲ聞タラハ先ヲ爭  
ヒテ都下ニ集リツトヒ一兩年ノ内ニハ何方ノ組ニ  
モ人ヲ欠フナカルヘシ又儒生ハソノ身分農商ノ賤  
ヨリ出ル氏既ニ道ノ師ト頼ムカラハ師弟ノ禮ヲ重  
シテ崇敬深カルヘシ太子世子モ學ニ齒スル法了レ  
ハ官祿高キ人ナリ氏カツテ身ノヒケニナルトニ非  
ス又一旦迎へテモソノ人虛名ニテ實才ナク或ハ才

私ハアリテモ不徳ニテ行操ナク師タルコトヲサル分  
ハ早ニ謝絶シテ改テ擇ムヘシカクノ如クナラハ才  
學行義有人ハ喜ニテ招キニ應シ不才無行操輩ハ愧  
懼シテ逃ヨルマシ夫ニテハ學風士風氏ニ正クナリ  
ユクヘシ今ノ士大夫無學ニテ中年半百ニ及ヒ或ハ  
少壯ニテモ文事一向ノ嫌ニテモ曾テ組ヲ辭スルコ  
トハナラスト法ヲタテ必其子弟ヲ出シ自分モ迷惑ナ  
カラ折々出席有ヘシ聞テ何ノ益ナク何モ聞カスメ  
一生ヲ虚度スルニハマサルヘシ又方角ニヨリ小身  
家ノミニテ庠校ノ場所モナク塾師ノ廩給不足ナル  
ハ官ヨリ地ヲ區シテ賜ヒ當分土木ノ費并二年ノ廩

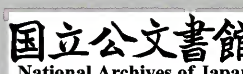
給ノ不足ヲ補ヒタマハルヤウニ有ヘキカコレハ少  
シノコニテ國費トスルニハ足サルヘシ

奉行代官ノ事

奉行代官ノ二職ハ民ヲ親シムノ重任ナリ其擇ミノ  
審カナルヘキハ申ニ及ハス但シ都下近邊ヨリハ遠  
方ノ分尤モ其審カナルヲ得ヘシ如何トナレハ近キ  
ハ其人秕政アルトキ速カニ徹聞シ民ノ害ヲ被ル日  
淺シ遠キハ少シノ秕政ハ上徹セス耳目ニ立ホトノ  
コニテ初テ徹聞スレモソレマテニ時日ヲ歷故民ノ  
害ヲ被ムルコト長ケレハナリ總メ官守イツレニテモ  
ソノ人ヲ得サレハ害ハアレモ或ハ上ヲ害シ或ハソ

ノ配下ヲ害スルニテ庶民マテニハマツハ及ハナハ  
ソノコト尚緩シ聚斂ノ臣有ニヨリハ寧口盜臣アレノ  
類也右ノ二職ハ不良ナレハ忽ニ庶民ニ害アルコト故  
其コト甚急ナリ

一奉行職ノ屬吏ニ與力同心アリ代官ノ屬吏ニ手代  
アリ皆地付ノ身ニテ掌故ニ熟シ世機ヲ諳スル故因  
縁メ姦ヲ營ムコト限リナシイツレモ不學無術ナカラ  
タマニハ温厚質直ナルモアレモ往々才ニ短シ才能  
アルハ姦智逞マシ行義才力揃タルハ主テ稀ナルヘ  
シ新ニ職ニ莅ミタル人目前用ニ立トテ姦才ノ人ヲ  
信任メ其欺罔ヲ受レハ其害甚シカルヘシ呂居仁ノ



童蒙訓二後生少年午到官守多爲猾吏所餌不自省察  
所得毫末而一任之間不收復舉動大氏作官嗜利所得  
其少而吏人所盜不貲矣以此被重譴良可惜也此弊ハ  
千載同概ナリ本府ニテモ從來此覆轍ヲ踏レシコト少  
ナシトセスニ職ノ人ハ此類ヲ少モ容サス此弊ヲ僅  
カニモ受サルホトノ才德ナクテハ全カラサルヘシ  
近來御新政ニテニ職ノ御擇ミ精詳ニテ追々其人得  
サセラレシヨリ屬吏ノ分々ナ屏息ノ勢見ユ何トソ  
コノ機ニ乘イヨミニ舊習惡風一洗ノ事ヲ萬々希フ  
ノミ  
一右ノ二職ハ重任ナルニ祿秩ハ甚輕シソレ故其人

二譜代ノ家來トテハ臆カニテ役人足ラス職任ヲ受  
タル日俄カニ抱ヘ入レアル故ソレヲ望シテ住籠者  
ニ循良清廉ノ人ハ少ナク大方ハ姦詐貪婪ノ徒也此  
先ツ過敗ヲ招ク基ナルヘシ故ニヤ、大身ニテ自身  
ノ家來ニテ事足ルヤウナルヲ御寄合ナトノ内ヨリ  
擇ク任セラルヘキコトニヤ是ハ先儒モ論シ置タルコ  
トニ愚ノ新夕ニ建議スルニ非ス然ラハ土俗ノ劇易  
ト配下ノ廣狹ニヨリ奉行職ハ三千石以上七千石マ  
テナルヘシ代官職ハ千石以上二千石マテナルヘキ  
カサテ自分ノ家來ヲ屬吏ニ立並ハセ日ニ其懸引ヲ  
熟察シ姦ヲ容ル、ニ地ナカラシメ或ハ手代ヲ召抱

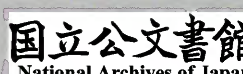
へス我家來ヲ以テソノ替リヲ務サスルカ又ハ中ニ  
 テ頗ル淳良亡害ト見ユル手代ヲ一兩輩抱ヘソノ餘  
 ハ皆ヤメテ可ナルヘシ抑コノ二職人人初ヨリカク  
 小身ナルハ元來子細ノアルコト也戰國ノ時士大夫ハ  
 皆攻城野戰ヲ宗トシ一番槍一番首ヲ天下ノ面目ト  
 シ死ヲ君ノ馬前ニ争ヒ或ハ幸ニメ封侯ノ榮ヲ得ナ  
 トヲ專務トシ獄訟租税ノ職ナトハ腰拔役味噌役ナ  
 ト惡名ヲ付テ見向モセ又風習ナレハ大身ノ人見ヲ  
 屑トセ又コトメソノ實ハ民ヲ親シミ懷ケ百工ヲ來  
 シ遠人ヲ柔クルノ重職タルニ心付ナキハ亂世ニテ  
 サモ有ヘキコト也サレモ照君ノ御神慮ヲ以テ照鑒

殘ルクマモナク參河ノ御時既二三奉行ノ御妙選有  
 シハ人口ニ膾炙スソノ後モ板倉伊奈ハ真才ヲ擇マ  
 セ玉ヒ蕭何關中ヲ治メ切臣ノ第一タリシ遺躅ヲ考  
 へ合サセ玉ヒシ御事ナルヘシカニ武功ヲ以テ追  
 ミ立身シタル人ハ吏職ヲ好マレ又故ソレヲ強ヒ玉  
 ハス輕キ人ハ肉ヨリ才能ヲ擇シテ詮序シ玉ヘリ是  
 又止リテ得サルノ勢ニテ好シテ微者ヲ用ヒ玉フニ  
 ハ非ス其後昇平打續キ良將猛士ハ國家ノ固メナレ  
 モ夕々不虞人備ヘノミニテ先ハ閑散ニ歸シ差向夕  
 ル重職ハ吏職ニ歸シタリ其比ハモハヤ例搭トナリ  
 タル故ニヤ奉行代官ニ大身ハ命セラレスメ今日ニ

批傳齋叢書 韓英成語卷二

至リ今更是ヲ改ムル下ハ舊例ニ違フヤウナレ凡必  
 シモ然ラス時ニ從ヒ宜キヲ揣ルハ國初ノ御神慮  
 ニ叶フ筋ナルヘシ  
 武門叙任ノ事  
 イツノ比ヨリカ武門ノ叙爵ハ五位ニ止マリ京室ニ  
 六位ハカリハ僅ニ存スレ凡七位以下ハ全ク廢レタ  
 リ惜ムヘキ下也又江都ノ諸士ハ薄祿微職ニテモ直  
 參ト稱メ侯國ヨリ格別ニ崇敬アルニ五位諸大夫以  
 下ハ皆無位ニテ平人ト同シキモアマリ質ニ選タレ  
 下也又侯家之家老番頭ナトハ陪臣ナカラ往々大祿  
 アリ其國邑ニテハ隻キ身ナル故此類モ位階アリタ

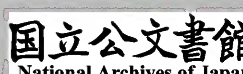
キモノ也故ニ何トソ六位以下ノ位階ヲ上代人如ク  
 復シ大初位ヨリ年限勤勞ヲ以テ次第ニ進叙シ六位  
 ニ止マルヤウニ有タキモノ也迎ノ下ニ官モ廢官ヲ  
 再興シ諸人官稱ノ少シニテモツカヘ少ナキヤウニ  
 スルモ良法ナルヘシ尚又次ニ是ヲ詳ニスト云  
 一任官ノ下邦典ニ長官次官判官主典ノ四等有下ナ  
 ルニ武門ニ於テハ長官ノミヲ用テ次官以下ハ家ノ  
 タリスヘテ中葉以來喪亂中ニ官爵ノ下大ニ混淆メ  
 任官ノ外ニ諸ノ官名ニカミモスケモツケヌヲ俗名  
 トスル下ニナリハ省ヨリ主水修理圖書掃部ナトノ  
 類ニ至リ勝手次第ニ名乗ヨリツヒニ兵衛ノ門ハ庶



人ノ俗稱トナリ又官ヲ帶サル大夫丞佐ナト專ラ平  
 人ニ通用スワケモナキ也先儒コレヲ論セシモ彼  
 是アリシモハヤ一風習トナリ來リ今サラ急ニ釐モ  
 大ラサル也平人ハ官名ノ外ニ自分ノ稱スル文字  
 ヲ別ニ添テ呼故タニ官名ノミヲ用ルトハ少シ品力  
 ハリタレハ是ハマツ姑クサシ置士大夫ノ官名ハカ  
 リ用ユル稱ヲ禁シ丞目ナトノ舊官ヲ興シ六位以下  
 ノ位階ニ配シテ必朝廷ヲ歷テ叙爵任官ノ位紀ヲ賜  
 ハルヤウニアリタシ

一侯國ノ大臣ナト國名ハカリヲ俗稱トスルヲ其ワ  
 ケモナキ也國名ハカリヲアケルハ君上ヨリ臣下

ノ受領メラル人ヲ呼セラルニ時ノ下也自分ニ稱ス  
 へキニ非ス必介掾目ナトノ任官有へキモノ也タト  
 七國各ヲ稱セス凡官名ヲ半分稱スル大臣ニナ此例  
 ナルヘシ但シ古ハ守以下高下アレ凡ミナ王朝ノ臣  
 ナレハ推竝ニテ叙任モスヘシ今ハ封建ニテ守ハ君  
 ナリアトハミナ臣ナレハ同ク叙任スルモイカニト  
 云へケレ凡是ハ然ラス古代同室ニテ命卿トテ侯國  
 ノ御大夫モ王朝ヨリ爵命ヲ賜リ車服ナト賜リシト  
 アリシ今日モ巴ニ大藩ノ大臣ハ皆五位ノ諸大夫ニ  
 テ受領アルヲ列侯ニ異ラス然レハ中藩小藩ノ大臣  
 六位七位以下ノ介掾目ナト叙任ニ何ソ子細ノ有へ





キニヤ 右叙任ノ口行ルニ日モアラハ江都人士大夫ハソ  
 ノ頭ニヨリ侯國ノ臣ハソノ主侯ヨリモ皆ソレミミ  
 ノ手寄アル措紳家へ執達スルヲ夕トヘハ諸寺諸社  
 ノ傳奏アル如クニシ位紀ヲ申オロシテ官位相應ノ  
 謝議人事物ヲ本人ヨリ獻ルヲ其頭又ハ主侯ヨリ又  
 右ノ如ク執達シテソレソレニ納ムヘキヲナラシサ  
 アレハ朝紳モ普クソノ益アルヲナルヘシ但シ朝廷  
 ハ典故舊格ノ守リ堅キ故新創ニテハナケレ凡年夕  
 ク廢シタルヲ今サラ舉ントシナハ廷議ムツカシ  
 夕行ハレカタキヲナルヘケレハ草野ヨリソレヲ知

ラスメカク議スルニハ非スタミ尋人成否ハサシ置  
 キテカクモアラマホシキト云意ヲ試ミニ述ル人々  
 コレ聖人ノ名ヲ正クスルノ遺響トスヘキモノ有ヘ  
 キカコトニ右ハミナ地下ノ官位ノヲニテ雲上ニハ  
 何サハルヲモナクシテ四位已上ハ自カラ階級マス  
 ミニ高クナルヲナレハ決メ行ハレサルヲトセズ所  
 思ハルハ 一世ニ吾孺百官トテ專ラ用ラルミアリ是ハ人モ知  
 リタル通平親王將門ノ僭偽ノ時ノ官名也世ハ遙カ  
 ニ隔レ氏叛賊ノ偽官ヲ受ルト云フハ決メアルマシ  
 キコナリ是ハヨク諭シテ一切禁制有ヘキモノニヤ

モトヨリ禁アリテ聊カモサシツカヘクナキコニテ  
 且名ヲ正スノ一端トスヘシ  
 一右叙任ノ新令モシ行ハルニ日アリ凡夥シキ士大  
 夫ノコナレハ故習ニ安メ叙任ヲ望マヌ人モ有ヘク  
 又先祖代ミノ通り名大リトテ改ムルヲ欲セスト云  
 モ有ヘシコレヲ強ルコトニ非スソレハ少レニテ捨置  
 テ望マルニハカリ叙任アルヘシ然レ既ニ官階アリ  
 ハ無位無官ノ人トハ品カハルヘシ故ニ同役中ニテ  
 新役ニテモ故役ヨリ上坐タルヘシ同階中ニテ少  
 祿ノ高下アリ凡先階ノ方上座タルヘシ侯國ニテモ  
 此通りナルヘシ此格ヨク立タラハ叙任ヲ望マヌ

人イソカヌハナキヤウニナルヘシ世

御番城御普請之事

一治マレニ亂ヲ忘レス安キニ危キヲ忘レストハ  
 人ノ明誠照ミタルコト也大坂ヲ始メ所ニ御番城ノ武  
 備ノ嚴重ナルコト國初已來制度詳カニシテカク昇平  
 ノ久シキニモ聊カ廢絶ナク往聖ノ意ヲヨク體セラ  
 レタルハ寔ニ有カタク御事也夫ナカラ年來ノ事故  
 御城内御番方ノ御小屋向段ノ頽破ニ及タル由聞  
 及ヘリ尤御破損方ノ有司アレハ御修覆ニ手拔ハナ  
 ケレ凡出納ノ吝ハ有司ノ職ニテ少シニテモ手輕ル  
 クスムコト働キトナリ又其御手當金モ年額アリテ餘

裕ナキコノヨシモ仄聞セリソレ故夕ニ目前ノ急ヲ  
塞クノミニテ全體ノ頽弊ハ救ヒ得ヘキニ非ス末ニ  
ハ朽敗益深ナルヘシ何分長久ノ御事ナレハ二三十  
年ニ一度ツミハ大修覆ナクハ叶ハサルコナルヘシ  
他處ノ御番城ハ愚ノ耳目ノ及ハヌ所ナレハ姑ク是  
ヲ置テ近ク大坂ノ御城ニテ申サハ御城代而御定番  
ノ三館ハ常住ノコ故サマテノコハナク其外一年切  
ノ御小屋向ハ以ノ外ニテ書院サヘモ雨中ニハ大漏  
ニテ庭上ノ如ク疊ヲアケテ其乾クヲ待ツコナリト  
承リ及ヘリ其家中ノ長屋ハ申ニモ及ハサルヘシ御  
城内ノ潦水ハミナ内隍ヘ落ルヤウノ水ハキナルヘ

シ其水道損シタル故ニヤ潦水ハミナ屋敷ノ下ニ流  
レコミ長屋ノ下ハ海人如クナル所モアリト聞ク上  
漏下滋フコノ通りナレハ病人多ク古人河魚腹疾  
ナト云タル類ニテ多ク腫氣ヲ病テ救ハサルニ至ル  
由總メ浪花城ハ丘陵ノ地ニ繩張アリタル故御城内  
南ハ高ク北ハ低クソレ故牙城ノ南ハ乾湟ニテ北ハ  
湟水岸ト齊シク少シ雨フレハ岸ヲ踏テ溢レ流ル  
コ常ナル由山里郭ノ小屋ハ此隍ノ内ニアレハ濕氣  
深クソノ外三御加番ノ小屋ハ東側ノ低所ニアリテ  
是モ濕氣甚クシク京橋口ノ小屋ハ北ニ在テ牙城ノ  
聳上タル陰ヲウケ隍水溢レ流ルニ末ヲ受タレハ第

一二濕氣深シト聞ク南ノ高キ所ノ大御番人小屋サ  
 へ水ハキ悪キ故ニヤ濕氣ヲ免カレサル由傳へ聞ハ  
 東北ハ思ヒヤルへシ因テ年々腫氣ヲ感スル人多キ  
 筈ナリ人命重事一人ニテモ水土ニ觸レテ疾ヲ得ル  
 ハ痛ムへキト也是君長タル御身ニ於テ等閑ノトニ  
 非ス常人ニテモ等閑ナラヌニマシテ勤番ハ不慮ノ  
 備へ大レハ平生ノナニ誰ヨリモ身體堅固ニテ武  
 術ニ間斷ナク人マサリニ働キ健カナルへシ年中ノ  
 要務ハ是ノミノトナリ然ルヲ右ノ如ク病人多ク死  
 亡モアルハ大ニ武備ノ障リトナリ神宗以來往聖ノ  
 明誠ニ遵ヒ治ニ亂ラ忘レサセ玉ハサル美意ニ背馳

スルヤウニナリ行へキハ苦ミシキ御事ナルへシ又  
 二是ハ必ス折ミニ大土木ヲ興シ水潦ヲ滯ラセス濕  
 氣ヲ消釋シカツテ病人ノ出來サルヤウノ手當ハ御  
 慈仁ノ美意ノミナラス不慮ノ備へノ尤肝要ナルへ  
 シサレト極治ノ世ニ不慮ノ備へハカリノトナレハ  
 度支ノ官ニテハ先サシ向タル出納ニ繁劇ナルトナ  
 ルへキト一旦ノ秕政ニテ國計匱シキヲ告シ比ナ  
 トタレ頻着ノ有へキニ非ス御多門ノ焼失サヘソノ  
 マニニナリ來リタリ近來仁政ノ美ニテモ曩時耗竭  
 ノ餘ヲ受サセ玉ヒ又不慮ニ禁裏御造營ナト經費  
 洪大ノ御ト今以御手モ離レサレハ中ニ餘事ノ大費

ヲ論スヘキノ時ニハ有サレ氏愚ハ兼テ竊力ニ存シ  
 寄タル一述アリテ是ハ大土木ヲ興シテモ國家ニ少  
 シモ費ス所ナク少シ隙ハ取ヘケレ氏武備ニ於テ少  
 シノユルニナク濕氣悉クサリテ病人ナクナリ大ニ  
 武備ヲ助クルヤウニナリ御番方ノ上下皆大慶ニテ  
 諸工匠ヲ始メ凡ソコソコニカミリタル者悉ク大ニ  
 喜ヒ誰一人迷惑スル者ナキヤウニアラントスルノ  
 術也コノ術ハ權術詐術ニハ非スイハユル法ノ巧ニ  
 ナルモノニテナシカタキヲ即チナシ得ントスルノ  
 術也ソノ方左ノ如シ  
 一御城ノ大土木ハ濶テ去リ第一ノ武備ナレハ御城

内ノ總水ハキヲ改ル下肝更ナリ然レハ御小屋向テ  
 殘ラス取拂ヒテ改メタキモノナレトソレニテハ一  
 旦空城ノヤウニナリ武備ニ欠所アレハソノ半ヲ存  
 シ半ヲ取拂ヒテ考フヘシソレニテモ總水ハキハ推  
 テ知ヘシ故ニ御番頭一方其組ノ御番士與カ并ニ御  
 加番ニ方ノ分是マテノ通りニテソノ半分ノ小屋ヲ  
 一時ニ取拂ヘシ尤是下ヲ興スハ必ス月交代ノトキ  
 ヲマナソノ半分ノ登リ番ノ方ヘ兼テヨリ土木ノ内  
 ハ江都ニテ扣ヘテ命セラレ常式御合カ采ノ得テ高  
 ノ二分通り賜ハリモシ一年ニテ濟サル時ハソノ  
 へノマニニテ交代アリ又其次ノ御番方ニ右ノ通賜

ハルヘシ御加番モ亦然ルヘクシテ扣ヘノ内ハ滯府  
 タルヘシ右府中ニ居ナカラノ扣ヘニテ交代ノ路用  
 其外在番ノ費用聊モナキトユ工二分ニテ扣ヘハ  
 足ヘシ殊ニ丸一年勤番ノ勞ヲ免カレテ外ニサセル  
 費モナキト故御番方ハ大慶ナルトナルヘシ右土木  
 ノ内萬ニ一西戎北狄ノ入寇ノ變又ハ中原不虞ノ  
 アラン時扣ノ分急ニ馳登ラルヘシ平日扣人トナレ  
 ハタシ命ヲ聞テ朝ニ發セラルヘシ二旬ヲ出スル  
 番方ノ手ハ揃ヘケレハ武備ニ於テ聊モ欠トナシ爭  
 亂ノ世ノ近隣皆敵境山澤悉賊巢ナト云トキハ格別  
 ノ下カミル極治ノ節ニ此二句ヲ待サル急變ナト云

下千ニ萬ニ決メナキトニテコノ扣ヘト云モノ懈緩  
 ニ歸スルト云ト一毫モ有ヘカラスコレ知者ヲ待ス  
 名知ルヘキナリサテ半分ニテ勤番アル分ハケニハ  
 務モ少シ多クナルヘケレハ常式ノ外ニ一分道リヲ  
 増シ賜ルヘシ右務ハタニ御番ノセハシクナルナト  
 ノ類ニテ勞事ヲ増ノミ外ニサシテ費用ノ増トモ有  
 トシケレハ一分ノ増賜ニテ其勞ヲ償スヘシコレ又  
 大慶ノ勞ナルヘシコノ半分ノ土木ノミナタル上ニ  
 テ残り半分ノ土木又右ノ通りナルヘシ御定番ハ居  
 ナカラノ下故初ノ半分ノ土木中ニ早夕出來タル御  
 加番ノ小屋ニ移シカヘ其跡ヲ取拂ヒ一所ノ普請ト

シ又後ノ半分ノ土木ノ時又一方ノ御定番ヲ移シカ  
ヘ右ノ通りナルヘシ大抵京橋口ハ山里ヘ玉造口ハ  
中小屋ヘト申スヤウニテスムヘキカ是ハツ子ノ如  
久ニテ何モ進退ナキトタミ一方ニ兩度ノ引移リノ  
勞アル故別ニ五百俵ハカリツミ賜ハリテコレモ大  
慶ナルヘシサテ土木ハ多人數ヲカケテ事ヲ急キタ  
ラハ半分ヲ九一年ニテモ出來立ヘケレ所ソレニテ  
ハ官人多クカミリサマミ無益ニ費アルトモ多ク  
宜シカルマシマツ九二年ノ積リナルヘシ又半分ニ  
九二年御定番ノ小屋タルメニ通計九四ヶ年足カケ  
五年ニ成就ト立ヘシ總メ御城普請ノ工匠輩ハ夫役

ヲ以テ召使ハルニ御下故諸人大切ニ存シ仲間ノ巡  
番ヲ以相務ル下也尤夫役故下ニ置ルニ作料公座ノ  
事ノ由是ハ其筈ノ可ナルヲ細民ハ利ヲ貪ルノ常情  
ナレハモシ多人數ニナリ順番セハシクナレハ迷惑  
ナルヲ只存シ自ラ怠慢ノ心生シ役ニ就テモ不口ニ  
ニ其頭ノ目ヲ掠メ陰ニ回リ休息カチニテ働カサル  
故職事ハカトラス上下ノ爲何ニモナラサル費多ク  
ナルト聞及ヘリ虚實ハシラス理ニ於テカミル下有  
マシキニ非ス一説ニハ官ヨリ賜ハル所ハ工人平生  
ノ定メノ通りナレ氏方ニヒケ方有テ工人ノ手ニ  
人所ハ四分一ホトノ可也初ヨリカミル渡リカ多ナ



ラハ工人モ夫役ト思ヒ安ニスレモ中途ニテイロク  
 ニ乾没アリテ右ノ如クナルユエ工匠輩甚久是ヲ不  
 平ニ思ヘモ嘆訴スルニ地ナシト言果シテ然リヤ其  
 實際ハ愚モ夕シカニ知ラス右ノ土木起リナハ是ハ  
 常例ノ外ニテ又平日ニ繼行ハルニテモ非ス是又  
 官ニ新ニ費ヤス所ナキノ工面スルノ故上ノ德意ヲ  
 以テ細民ノ御救ヒト申ス姿ニテ作料ハ町ニテ取ル  
 ヘキ程賜リ童子ノ僅カニ材未ノ穴鑿ヘキホトノ右  
 ニモ半役ヲ下シオカレ元服シタルモノ未熟ニテモ  
 一人役ニ命シサセラレナル夕ケ人数ヲ減シ順番ノ  
 セハシカラヌ様ニ命アラハ皆ニ大ニ悦ヒテ庶民予

來ノ勢アルヘキカサアレハ働キモ宜シク土功モハ  
 カトルヘク上下モ益アルヲナルヘシ又厠輩ノ渡  
 リ者御番方ニ奔走セシ者トモ御番方暫一方ニナレ  
 ハ半ハ手ヲ空シクスヘケレモコレハ皆土木ノ人夫  
 トシテ召使ハレ相當ノ備賃ヲ得テ一日モ間日ナク  
 務ラルヘキナトニテ少シモ難儀ノヲ大カルヘシ  
 一右土功水ハキヨリ始ムヘシ御城内ニハ定テ惡水  
 ノ内外混ヘ落スヘキ水竇アルヘシ年久シキヲ故カ  
 ノ水竇湮絶シタルナレハ修治スヘシ水竇ニハ別條  
 ナケレモ地形アレテ惡クナリ潦水ハ竇ニ赴カサル  
 カ然ラハ地形ヲヨクシ悉ク水竇ニツミクヌ  
 出修御書 草莽危言卷二



へシ何フニ總御小屋向ノ地形ヲ其門前ヨリ一尺モ  
 高クシ建物ノ下ハ二尺モ高クナルヤウニ築アケテ  
 水ハ其門前ノ溝へ落シ溝ヨリ水竇ニ注キ入ヘシコ  
 レハ大氏ニテ論スルノミ何フニ水竇アル所ノ地勢  
 ニ從フヘシ此地形ヲ上ル土礫ハ他ニ求ルヲ待ス牙  
 城ノ四面御小屋前ノ往來ノ地ノ低キ所ハ一二寸高  
 キ所ハ三四寸モ削リ取レハ一足又ヘシモシ又續リ  
 トハ違ヒ引足スハ外城大手前ノ番所ヨリ玉造リへ  
 回り杉山ニ連ナリ高所ヲ削夷セハイガホトノ土砂  
 也トモ十分ニ足ヘシサテ建物ハ長屋迄モ是マテヨ  
 リハ床ヲ出クスヘシ是濕ヲ防クニ宜シ末ニノ床ハ

今マテハ往々竹簀カキナルヘシ皆改テ板ヲ付フヘ  
 シ是寒ヲ防クニ便アリ屋根モ少シ高クシ良隸ノ  
 ノ外ハミナ麤板ニテモ天井ヲ張ヘシ是暑日ノ炎氣  
 ヲサケ冬日ノ寒風ヲ透サス壁ノ外ハ二分土又リ内  
 ハ中又リニスヘシ是雨濕ヲサケ透間ノ風ヲ防クミ  
 ナ人ヲメ病シメサル術ナリ屋ハ一統ニ瓦葺ナルヘ  
 シ是炎威ヲサクルノミニ非ス第一火ノ備ヘナリ御  
 城内ハ炎警嚴重ナル故失火ノ虞ハナケレ先手ノ  
 加ク雷火ノ變ナト測リカタク又去歲上町ノ火災猛  
 風焰ヲ吹カケ長屋向既ニ火ノ粉ニテ燃付タル所モ  
 アリシ御防手取ケナカリシユ工速力ニ消滅アリタ

ルヨシナレハ危カリシトナリ瓦屋ニテハソノ氣遣  
ヒナシ瓦ハ費ス所多ケレハ火難病難大切ノト其上  
追ミノ破損ヲ免カレ積年ノ土ヨリ見レハ過費ニア  
ラス

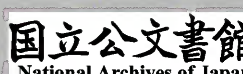
一大御番ノ西小屋ハイカナルワケニヤ東ト千カヒ  
殊ノ外手狭ク外城ノ塀裏ニ迫リタル故別メ暑蒸堪  
カタキト云フ聞及ヘリ愚拙御城人ノ官命ヲ蒙リシ  
ヨリ毎度往返二日ノ及ヘル所マテハ西小屋ノ前外  
形ノ後口ニアタリテヨホトノ空地アリ是ハ毎年ノ  
爲ニワケアルコナラハイサシラスサモナクテタミ  
空地トナリタルナラハコノ所ヘ西小屋ヲ四五間ハ

カリ張出シ屏裏ヲケシヌケテ鬱蒸ノ氣ヲ世シイ  
ミ手狭クハ小屋ヲ一ト間二間建添テモ宜シカル  
ヘシ

一右土木ノ費用総計ハ何ホトノナルヘキカ大抵  
二萬金ハカリノコナルヘケレハ何角念ヲイレ經營  
アラセラレタキトノ主意ナレハ彼是入り増モアリ  
トシテ三萬金ニテハ圓備ナルヘキカ愚計ヲ以テ兼  
テ考フルニ御番方ヘ御合力米年々不同有ヘケレハ  
平均ニテハ十二三萬依程ノト聞及リコレ見救ニ  
シテ九五萬石餘也此内現米三萬石餘ハ上文ニ述ル  
加ク御番方夫ノ渡方トシ其残り現米一萬八千石

トナルヘシ内八千石代ヲ似年土木ノ料トシ一萬石  
ヲ遊金トシテノケオクヘシ前後四ヶ年ヲ通シ合セ  
テ三萬二千石ニテ土木大成シ合セテ四萬石代遊金  
トナルヘシ此遊金第一不虞ノ備ヘ也土木イマ夕畢  
ラサル内二萬ニ一戎狄不虞ノ變ナトアラハ右遊金  
ヲ以テ建殘リタル所ニ急ニ假屋ヲカケ扣工ノ分馳  
登ラルミ御番方ニ夫ニ渡シ方ヲ立ルナト別ニ國計  
ヲ勞セスシテコ辨スヘシ是ハ夕ニ治ニ亂ヲ忘レサ  
ルノ手當ノミ勿論安穩ニ年限ノ通りヲ濟ヘケレハ  
ソノ上ニテ先年炎燒ノ斗形御門御櫓等ノ再造并御  
城代屋敷ノ修理ナト右遊金ヲ以心易ク完ルヘシ

或ハコレヲ難シテ國用ヲ費ス所ナク又切要ハ大に  
木ヲ大成スルハ成ホト一策トスヘケレ凡カク歲月  
ヲ彌久スルコト左右ニヨセテ陰力ニ遊金ヲ貯フ  
ル爲ニ圖ルヤウニ見エテ處置ノ磊落ナラヌ所アリ  
夫ヨリハコトヲ速カコシ右ノ遊金ヲ打コミ一方ヲ  
一年ツクニコトヲ竣テニヶ年ニテ成スヘシソレトテ  
モ兩年ノ高通メ三萬六千石ヲ以テ三萬兩ノ土木料  
ヲ辨シ六千兩ノ遊金ハ有ヘシコト方磊落ナルヘシ  
トイハンニ是然ラス上ニモ述ル如ク御番方ハ武備  
一通リノコナレハ武備ニ於テ少シモ廢缺ナクソレ  
ニ手當嚴重ナル上ハ少シ歲月ヲ引タル凡聊カユ



タントスヘカラス遊金ノコハ元ヨリ國家ノ益ヲ圖  
 リメルナレトコノ一事全體皆國家ノ益トナルコト也  
 總メ下ヲ損メ上ヲ益スコハ聖賢ノ誠ル所ナレト今  
 ノ圖ル所ハ上ハ國家ヲ益シ中ハ列侯士大夫ヲ益シ  
 下ハ工匠徒役マテ利スル所ニテ外ニ一人モ不利ノ  
 コナシ易ニイハユル義之和ナル者也愚アコ私スル  
 所有テ然ンヤソノ上數千ノ遊金ノミニテハ炎上場  
 マテ手ハ届キカタカラシ炎上場本ヨリ武備ノ一ツ  
 ナレトモ數年前ノ振合ニテハ當分不意ノコトテ等  
 閑ニ過サセラレシニヤ又唯今ハ國家打續キ差向夕  
 ル大費モアル御コナレハモハヤ年來ノコトナリ又

ル炎上場ハ俄ニ問セ玉フニ違アラサル御コトモ有  
 ヘシカニル時節ニ當リ少シモ國費ヲ缺スメコト見  
 備センハ志計ノ一ツトスマシキニモ非ス四五年ト  
 イヘハ遲緩ナルヤウナレト國初ニ當御城ノ大土木  
 ハ大勢ノ諸侯ニ手傳仰付ラレタレハ六ヶ年カニリ  
 タルヨシナリソノ已來殆コト二百年ニ及ヘリ今コ  
 ノ一舉ニテ又二百年ハ保ツヘケレハ前後四百年ノ  
 間ニタマ數年ト見レハ何ホトノコトモアルマシ故一  
 愚計ノマニニテサセル難モナキコナルヘシ尚又刀  
 子テ竊カニ考フル所ノ乘除ノ委曲ヲ左ニシルスト  
 云



御番方毎年御役料米一倍高

一 壹萬俵 東御小屋 大御番頭

一 壹萬俵 西御小屋 大御番頭

但シ御一方ハ萬石以内ノヲアリ雙方トモ萬石

以下ノヲモアリ又皆萬石以上ノヲ元ヨリニテ

年々不同有萬石以下ハ御足高有大氏五七千俵

ハニテ濟リモアリトキケ氏全體萬石高ノ御持分

ノヨシ故ニ古來定タル常數ヲ以テ算ヲ立ル也

一 三萬五千俵 右兩御組 御番士百騎

但シ御番土方ハ大身小身打雜リ年々大ニ不同

ノアルヘキナレ氏大氏平均三四百石ノ高二ナ

本丸ヘキカ故ニマツ三百五十俵ナシニ算ス大

二 相違ノヲニヤ心モトナシ

一 五千俵 右兩御組 與力二十騎

但シ二百五十石高ノ積リ也外ニ同心アリヤ有

トモ微者ノヲニテコレハ詳カニ知サル故略メ

算セス

一 右合セテ六萬俵

一 三萬俵 山里御加番

一 二萬俵 中小屋御加番

但シ右ハ唯今ニテハ十分一ノ引方コレアルヨ

シ是人定メハ中コロヨリ有司ノ一時ノ勘辨ニ

出タルコトニテ本數ニハ非スト聞及ヘリ昔ハ五  
萬石ノ高マテモアリテ脇坂侯ノコノ職ニ莅マ  
レシコトアリシソノ後國費ヲ裁抑シテ三萬二萬  
ノ高二定マリシナラニ故ニ今マツ本數ヲ以コ  
レヲ算ス下ノ二口是ニ同シ

一 壹萬俵 雁木坂御加番

一 壹萬俵 青屋口御加番

合テ七萬俵

右總計拾參萬俵定メテ四斗俵ナルヘケレハ  
二 現米五萬二千石也

右現米五萬二千石ノ内二萬六千石ハ是迄ノ通り大

御番並ニ御加番御番士以下半分勤番ノ方ヘ御渡シ  
方丈二六千石ハ右ノ一分増入御渡方ト合テ三萬  
八千六百石引残り二萬三千四百石也御番方御加  
分ニ二分ノ渡方ノ高五千二百石又御定番一方引移  
ノ料五百俵分見米二百石合テ五千四百石右ノ残り  
二萬三千四百石ノ内引又ソノ残り一萬八千石也先  
ハ一石一兩ノ積リヲ以此代金一萬八千兩ノ内一萬  
兩ハ遊金トシ殘テ八千兩ヲ一ヶ年分ノ土木料トス  
ヘシ其次等又一ヶ年右ノ通ニテ半分ノ土木落成シ  
土木料二年合メ一萬六千兩遊金合メ二萬兩トナル  
按ニ御定番分ノ二百石ハ兩年カケノ積リナルヲ爰  
二一年ニ入タルハ誤リナレト比筭上アマリ奉細ニナ

ル故其マ、又次ノ二ケ年ニテ残半分ノ土木成就シ  
ケニ置也  
コノ二ケ年合テ土木料又一萬六千兩遊金又二萬兩  
ナレハ四ケ年通メ土木料三萬二千兩ニテ最初二ケ  
三萬金ト積リタル數ニハ十分ナルヘシ遊金ハ四萬  
兩トナルヘシモシ土木料ニ不足アラハ遊金ヨリ補  
ヘシ又餘リアラハ遊金ニ歸スヘンソノ實ハイカニ  
シテ予氏土木料愈三萬金ニ止マラハ算ノ面ニテハ  
遊金ノ高四萬二千兩トナルヘシ土木ハ九四ケ年ノ  
夏ニ終レハソノ秋ヨリ右ノ遊金ヲ以炎上場ノ再造  
ナラヒニ御城代屋敷城外諸官舎ノ修造アラセラル  
ヘキカニ

一炎上場ハ升形御門并ニソレニツミキタル御櫓却  
辨ナルヘシ御成代屋敷ハ水ハキヨク見エイツノ御  
屋敷ナルニヤ格別ノ頽破トモ見工子ハ大修覆ニテ  
スムヘキニヤ御長屋向ハイカニ有ヤ損破甚シクハ  
建替ナルヘキカコノ費用何ホトナルヘキ大氏ハ御  
番方半分ノ資用二噸シ一萬五千兩ニテハ丁足ヘキ  
カ其分ヲ右ノ遊金四萬二千兩ノ内ニテ引トリ殘テ  
二萬六七千兩ハ眞ノ遊金トナルヘシ果メカクノ如  
クナラハ國家ハ大計ニ於テハサセル高ニモアラス  
凡上下相益テ歡欣和樂ノ中ヨリ自然ト出來タル羨  
餘故竊カニ一世ノ爲ニ慶スヘキナランコノ遊金

出 卷 第 一 世 人 爲 二 慶 ス へ キ ナ ラ ン コ ノ 遊 金

ノ内ニテ所ニ都會ノ地ニ學校ヲ興シ度キ者也別ニ  
 國費ヲ煩サスル永世不朽ノ大益ノ基トナルヘキ  
 是而便ノ丁ナルヘシ學校ノ丁ハ尚又別ニ論スヘシ  
 一コノ以後二十年ニ一度ツミ大修覆有タシコレハ  
 御番方半分九一年切ノ扣ヘニテ御在番ノ分修覆濟  
 タル方へ半年ツミ從リ替リト申ス様ニテ渡リ方普  
 諸方諸人用何事モ大土木ノ時ノ四分一二テ事終リ  
 テ此入用遊金ナト一算シテ知ヘキノミ此通ナラハ  
 永代大額破ノ丁ハアルヘカラスソノ夕ヒ毎二一高  
 兩計リノ遊金ハ自然ト出來テ永ク不虞ノ備トナリ  
 且又コレニテ平日年ニ御修覆ノ費ヲ省クモ若干ナ

ルヘシカタミニ以テ自然ノ國益トナル丁ナルヘシ  
 一押小屋向疊建具ハツケ渡リニテ一間ニ書付ア  
 リ改テ段々ト引渡シニナルトキケリ御番士并ニ諸  
 家丁ノ分モ皆然ルヘシ是マテハ御番士以下ノ鑛釜  
 桶壺ノ諸道具ハ交代崩ニ皆賣拂ヒ新代ノ人一ニ買  
 入レニナル故ソノ兩三日ノ間ハ以テ外ノ昆雜ナル  
 丁當座ノ飲食ニ丁チ欠人モ有ヨシ又御城外ノ諸商  
 人は丁賤ク買貴ク賣テ過當ノ利ヲ貪リ或ハ諸道具  
 ヲ損料カシニテ御番ノ人無益ノ費モアルナト其害  
 其差支ヘ枚舉スヘカラス大ナル年々ノ通患タルヨ  
 シ也是ハ大土木落成ノ時官ヨリ悉ク是ヲ辨シサセ





ラレ壘建具諸道具ハ長屋向マテ残ラス軒別ニ書付  
 ヲ以引渡し諸家中人米油醬噌薪炭ナト二三日用へ  
 キホトヲツモリソノ主人ミミニ賜リ主人ヨリ家中  
 へ配分アルヘシ家中少ナクアキ長屋多キハソノ餘  
 タル諸道具ハ主人へアツカリ米油已下ハ主人ノ臺  
 所へ打ヨミ用交代ノ時其數ヲ具へテ次へ渡スヘシ  
 其家中ノ人在番中諸道具ノ損シタルハ繕ヒ失ナヒ  
 タルハ補ヒ米油以下初メ受取タル數ノ如ク用意書  
 付ヲ以テ残シオクヘシコレニテ交代ノ時ノ通惠ヲ  
 免カレ初登リニテ當地不按内ノ人別シテ方ヲ得へ  
 シ方又アテモ初アテサルハナクヨク新有テ鮮ナ

キノ人情大レハ次第ニ入カハル人故ニ寺ノ頂邊ヲ  
 寛上ナルヨリ今ノ廣惠ヲ忘レ年數ヲ歴ル内ニ諸道  
 具段ニアシクナリ數ヲ書付ニ合スマテニテ用ラレ  
 又物ハカリニナリ又ハ不埒ノ人アリ諸道具書付ニ  
 ミタス米油以下ノ諸式ノ揃ハ又モアルヤウニナル  
 へシ故ニ二十年目大修覆ノ時ニ是ヲモ修覆ノ數ニ  
 入レテ官ヨリサラリト改メツカハサルヘシ廿年ニ  
 一度宛改マレハ永代トヲ欠トナカルヘシ是ヲ遊金  
 ノ内ヨリ辨ヘラレンハ至テ容易ノトナルヘクシテ  
 諸人ノ恩庇ヲ蒙ムルトハ莫大ナルヘキカ  
 一右ノ土木ノ積リヲ照シテ二條ノ御城ヲ始メ所ニ

ノ御番城ノ御修造モ追々行ハレタキモノ也他所ノ  
曲折ハ詳カニ知所ニ非ス又右ヲ以テ准スレハ詳カ  
ニスルニモ及ハサルヘシ

武家養子ノ事  
武家養子ノ事ハ御條目モコレアリ同姓ニ養ヘキ人  
ナキ時ハ縁者或ハ他姓ヨリモ求ムヘシトハ御下ナ  
レハ他姓養子公然タルナレハ是ハ同姓ノ養子必  
トシカタキヨリ設サセラレタル法也元來他姓ハア  
ルマシキ筈人ナレハ同姓ニ養子トスヘキ人柄ナ  
ケレハ目前ソノ家廢絶スル故已下ヲエスノ他姓養  
子ノ下ヲ免シ置セラルミナリソノ上今コノ付如ク

云モ差別アリ今ハ氏族ハ異ナレハ本姓明白ニ同  
シク源トカ同シク平トカアレハヤ小同姓也ノ人  
ワカレタル下既ニ久シク又ソノ家ヲ興シタル人ノ  
子孫ニ非サレハ十分ナル下ニハアテ子ハ是ヲ他姓  
トハスヘカラスモシ系圖慥カナラスタミハ傳ヘ  
タルハカリノ下ナラハ他姓ニ同シカルヘシ是又人  
々辨フヘキコ也昇平以來ニ百年ニ迄ク世追々其意  
ヲトリタカヘ同姓異姓ノ差別ヲ心得ス跡サハ立ハ  
宜キトノミ心得テ段々他姓相續人下ヒ口クナリ唯  
今ニテハ諸族ノ内始祖以來一代モ他姓養子人ナキ  
ハ稀ナルト申ス位ノ下ニモナリタリサレハ年久シ



キ風習故俄ニ如何トモスヘカラスコノマニテ又  
年ヲ積ナハ最初祖先ノ功勞ヲ重シテ茅土アラセテ  
レタル家ニ殘ラズ他人ノ有ルルヘキヲ洵トシ惜  
ムヘシ或ハ侈靡ノ風サカシニ大リ同姓ノ輕キヲ舍  
テニ異姓ノ重キヲ求ムル様ニモナリ旁以テ苦ニシ  
キコ也近キ比名家ノ他姓養子アリタルヲ聞及ヘリ  
此家ノ國家ニ於テ干城腹心ノ功勞アリシニ非ス又  
戚畹ノ近親シミアリシニ非スタニ珍シキ古家ナレ  
ハトテ勝國ノ時ヨリ格別ノ格式ニテ立置セラレシ  
ハ一線ノ血脉一ツノコナリ然ルヲ他姓ヲ以繼レテ  
ハ上ノ御賞勲ノ筋ハ悉クハテタリ以テトモ外ニ他

姓地ヲ掃テナクハ實ハ止テ得サルナレハ是非モ  
ナシコレハ凶上ニ同姓アリテ其家ヨリマサルハカ  
リノ慥ナル血脉ニテ子姓ノ數モアリ聲息モ通ル  
ナルニハレハ世ニ陰レタル家ナル故取合ス又他  
顯諸侯ヨリ養子アリタルヨシ別ノ殘多キコ也第一  
ニハ御條目ノ同姓ナレバ他姓ヨリトハ昔ニハ背  
キタルコ也上卷ニ述タル分封ノ事太宗小宗ノ注ニ  
近クハハモシ此事行ハハ同姓養子ノ備ヘ厚クナル  
ヘケレ凡全體世ニ同姓ヲ重シタル心ナク日就ノ便  
利ヲ求ルコトナリタレハ舊習ヲ革ムヘキコトナカ  
ルヘシ是ハ今日ヨリ法制ヲ一ツ設ケスハハ救正シ



カタカルヘシ試ニ其法ヲイハシ今マテノ下ハ他姓  
 毛實ニ准シサラリト置テ問ヌコノ度號令ノ下リシ  
 日ヨリ以後諸侯方ハ云ニ及ハス麾下ノ士大夫末  
 マテ相續ハ必同姓タルヘクイカホト輕キ家ヨリモ  
 尋テ求メテ迎ヘトリ又先代養子アリシハ其血脉ノ  
 分ハ姑ク同姓ニ准シ妨ケナカルヘク今日ヨリ改テ  
 他姓ヲ取リ堅ク禁制アルヘシモシイカヤウニ求メ  
 テモ血脉ナク實ニ止リテ得ヌ他姓養子ノ願アラ  
 ハ家督ノ十分ニテ削リテ跡ヲタテ又後代ニ血脉  
 ノ養子出來タル時本姓ノ通リ還附アルヘシ總メ同  
 姓ノ親類大キモ家臣ノ内ニハ必ス同姓ノアルモノ

ナリモシ外ニ求メテ無時ハ家臣ノ内何代タナメレ  
 氏血脉ニ紛レナクハソレヲ迎ヘ取テ嗣ト定ムヘシ  
 家臣ノ子ヲ主人ノ養子トスルハイカニトイフ俗論  
 アリテ此事是迄行ハレヌハ甚非ナリ世ニハ親王公  
 卿ヨリ大小諸侯迄其血脉ノ故有テ民間ニ墜タル者  
 俄カニ搜シ求メテ迎ヘ取リ嗣トシタル者又少カ  
 カラス鍛治家ノ槌打トナリ居タル童子遂ニ親王家  
 トナリ町入ノ手代トナリ員販シ農家ノ子トナリ耕  
 犁ニ服シ居タルカ一タニ諸侯トナリタルナト正シ  
 ク聞見ノ及フ所ニアリソレサヘアルニ譜代ノ家臣  
 ノ子ヲ迎ヘ取リ何ノ嫌疑ノアルヘキモシヤ久シク

養了ノ子孫ニテ立タル家人珍シク先祖ノ血脉ニ復  
シタルハ其家ナカ比ニ少減シタル高モアリ大ハ是  
ヲ復メ祖烈ヲ顯ハスヘシモシ大分ニ減シタルハ或  
ハ半減ハ三分一或ハ十分一カト宜シキヲ量テ還付  
アラセラレタシモシ大藩ニテ曾テ減テ了ナキモ官  
位ノ昇進中比ヨリ落タル分ハ先祖ノ昇進ニ從ヒ或  
ハ一二等ヲ進メ是ヲ賞格トスヘシソレモナキハ別  
ニ何ニテモ賞賚アリテ寵異アラセラレタシ侯國ニ  
モ令ヲ傳ヘテソノ家臣ノ養子右ニ准シ法ヲ定メシ  
ムヘシカクアリナハ同姓ノ養子段ニト盛ニナリ他  
如養子ト云コハ消失ルヤウニナリユク今シ

武門元服ノ事  
一元ハ首ナリ服ハ衣服ノ服也元服ハ首ノ服飾ニテ  
冠冕帽幘ヲ着テ禮トスル下ナルニ今ハ武門無上人  
尊貴ヨリ侯伯士大夫マテ下ハ平民ニ至アラヌ姿ニ  
變シ來リタレハ首ノ服ナルコカツテ大シ舩不舩  
哉舩哉トハカミルコトニテモアルヘシ鄙撰ノ逸史ニ  
是ヲ論シタル一條アリ左ノ如シ  
元和二年丙辰春正月正會命侯伯以下隨爵位具冠服  
以改軍容  
逸史氏曰今之俗以去頂髮爲成人之儀者京室播紳之  
外無貴賤皆然相傳萌於鎌倉時或曰劊乎室町氏蓋喪

出參齋叢書 草莽記言卷二 三十五

亂之世從軍者兜鍪皆生蟻蝨故權剝頂髮以避其患役  
 罷復舊既而天下滋亂將士丁壯不遑復髮焉因仍成俗  
 率至於以代冠禮其為軍容也甚矣或又曰中古有月額  
 今去頂髮者蓋月額以過甚非軍容也未知孰是縱非軍  
 容乎其失禮容則一矣俗又有單麻肩衣半袴通為貴賤  
 公服亦係亂世有簡之製可厭耳當時守文之治登服制  
 正國容可謂盛事矣然未及變斯俗留以成世之頑習惜  
 夫カクハ論スルモノハヤ年久シク風ヲ成タル故  
 今サラ俄ニイカン尺シカタシ元來總髮タル上ニ長  
 クソハシ婦人ノ髮ト同シ様ナル筈也源ノ渡カ妻我  
 死セル濡髮ヲ探テ證トセヨト云シ洗髮ニテ髻リ作

ラ快ルハ男女差別カカリシト見ヘシイツハ詩ヨ  
 リニヤ男子ハ短カク切トニナリタリケシ左氏ニ興  
 髮短ト見工史記ニ秦伯ノ斷髮文身シ南越王尉陀髻  
 髻ノトナトアリ皆吳越南裔ノ風也琉球ハ南夷ナレ  
 任髮ハ斷サルニ我邦ノシハ斷髮トナリ是ハカリハ  
 京師措紳モ免カレス今ニ古風ヲ存スルハ履ニ洛北  
 ノ八瀨ノ山民ハカリ也快ル故是ハ別メ改カクキ  
 ナレハモハヤ改メス任下ニナルヘシ但願久ハ武門  
 一統ニ折ヲ得テ古ノ總髮ニ歸スルヤウニアリタキ  
 也ハナリミ夫總髮タレハ元服ノ式ニハ自然ト冠帽  
 ヲ用ユルヤウニナリテ是尤美事ナルヘシ剃頂ハ軍

突ト見ユレハ士卒ノ當リ前ヘ方レハ輕キ士輩ヨリ  
 庶民ハ今マテノ通りニテ公儀ニテハ御目見以下諸  
 侯家ニテハ何ノ格以上ハ總髮ト云ヤウニテ宜シカ  
 ラン今日迄世間一統ニ剃頂セル人ヲサシテ奴アタ  
 マト呼ハソノ賤民ノ風タルハ知ヘキノミ民間迄モ  
 髮ヲ立ルニ禁ハナカルヘシ  
 一總髮ハ詔モ慣ハ又下故モシ新夕ニ令下リナハ氣  
 ノ上ニ為テ患ヒ頭瘡ニ害スルナトサマニノ難義有  
 ルヘケレハ古代天下總髮ノ時コノ患有ルコトヲ聞ス  
 今日當ヒ方ニテコノ沙汰カツテナシ婦女子ハ元ヨ  
 リナリ必竟ハ身ノ馴ルト馴ヌトノノミ也サレハ

是ヲ強ルハ宜シカラス故ニ必是ヲ行ハントナラハ  
 夕ニ位階官祿アル人ハ總髮タルヘキワケヲ能喻シ  
 ソレハ習ハ又下ニテ迷惑ナル人ハ自他凡是迄ノ通  
 リ筋次第トシ望ニテ髮ヲ立ル人ハ外ニ類少ナシ  
 トテ見合スニ及ハス外ニ混雜スルヲ厭ハス髮ヲ立  
 ルモ立ヌモ屈ケニモ斷ニモ及ハス隨分法ヲユルカ  
 セニシタミ小兒ノ成長ノ時剃頂スル下ヲ嚴重ニ禁  
 シモシ犯スモノアレハ威罰ヲ施サセラルニホトノ  
 事トシマツ七歳ヨリミナ髮ヲ夕テ總角トシ十五成  
 童以上元服ノ時必冠帽ヲ用ユヘシ兒童ノツヒニ剃  
 頂セヌ人上氣ナトノ患アルヘキ筈ナシコノノ堅ク

行ハレ二十年ニ及ヒタラハ殿廷ノ内大カタ總髮ノ  
人トナリ初メ受引サリシ人モサスカ剃頂ハ士庶賤  
貴ノ風タルニ心付タラハ自然ト歸正アルヘシコレ  
督責ヲ假スメソノ風ヲ變スヘキト也或ハ幸ニ廟堂  
ノ尊貴ノ御方ヨリコノ風ヲ舉行ハセラルミトモ有  
ラハ諸侯大夫ハ勝手次第ト命アリテモ上ヲ學フ下  
ニテ風ニ偃ス草ノ如クナレハ一兩年ノ内ニハ追々  
變化シ必シモ勸勉曉諭ヲ待サルコトモアルヘシ又或  
ハ多キ中ニハフヲ曉サミル人アリテ武勇ヲ好メハ  
係鬢撥鬚ナトニモスルモノヲ總髮ニテハナマヌル  
夕公家メキテ武道ノ衰ヘトモナルヘキナトイハシ

ハ笑フヘシソノカミ源平家ヲナシテ武門ヲタテシ  
ヨリ數百年間世ニ名高キ良將猛士ハミナ總髮ナル  
ノミナラス婦人ノ髮ト同シモノナリコノ二百年來  
ノ内太平ノ化ニ誇リ懦弱ニテ聲色ニ溺レ奢侈ニ長  
シ國ヲ滅シ家ヲ失ヒタル人ミミナ剃頂ナリ頭髮ノ  
形狀何ソ武道ノ盛衰ニアツカル所ナランヤタニ治  
世人禮容ニ於テハ關係スル所甚大ナルモノアリコ  
レ識者ノ深く考ヘテ知ヘキコトナランカシ  
一足利家元服ノ禮式甚ク嚴重ナルコトナリシ理髮加  
冠打亂シナト儀節モ亦繁シ叙世衰緇ニテ江州ノ山  
谷ニ奔竄アリシ時ニテモ山中ニテ此儀式ハ儼然タ

出修齋書 帶新危言卷二 三十七



ヘハコノ元服ノ式モ定テ同様タルヘシカツテ東武  
實録ノ類ノ書ヲ彼是ト閱セシニ御袖留ノ式アリ又  
御元服ノ式アリ御袖留ノ方ハソノ儀ハソノキ御元  
服ノ方ハ嚴重ニ見ユコノ御元服トハ定メテ古禮ノ  
如ク加冠ナルヘシサレモ御代ニハ御剃頂ノ御姿ト  
承リ及ヘリ申モ恐レ有モコノ御剃頂ハイツノ時ニ  
行ハセラルニヤ定御加冠ヨリ後ノ御事ニテ是ニ  
別段重キ御儀式アラセ玉ヒヌヤウニ記録ノ面ニハ  
見エタリ然レモ時節アリテ剃頂ハ御停度アラセ玉  
ヒテモ御儀式ニ於テカク所ハナキニヤト推揣リ奉

ラルコノ下草野ノ議ノ及フヘキニ非サレモ下ノ序  
ニ録シオクノミ

衣服制度ノ事

古ヨリ武門ニ服制ノ有リヲ聞スシカシ烏帽子直垂  
符衣大紋素袍ナトイツノ比ニカ禮服トナリタレモ  
サシテ高下ノ差別モナク制度染色ナトニ曲折モナ  
ク素袍烏帽子ハ平民マテ通用ノ下ナリシカ足利ノ  
季世ヨリ是等ノ下モ次第ニ崩壞シ御治世ノ前ヨリ  
變シテ肩衣半袴トナリ武門一統尊卑ヲ論セズ格別  
ノ儀式ノ外ハ皆コノ服ヲ用ル下ニテ平人マテ通用  
シ一向階級ノ分ラヌ下ニナリ來リタリ 後光明帝

ハ近代ノ英主ニマシ、テ深く學文ヲ好セ玉ヒ經  
 筵ニ四書新註ノ進講ヲ救命アリ朝章ヲモ彼是ト矚  
 正アリハサレ雲上ノ弊風ヲ挽回アラセラレントノ  
 敷慮モ厚ク其序ニ武門ニ禮服ノ古意ヲ失ヒタルヲ  
 歎カセ玉ヒ四海萬國イツレノ地ニモアレ袖ヲキ衣  
 服ヲ禮式トスル丁ヤ有ヘキトテコノ反正ノ丁ヲ東  
 關ニ人教諭アラセラルヘキニ極マリタル時ニ天崩  
 レ地裂テ俄カニ群臣ヲ捐サセ玉ヒシ丁嗟嘆ニ餘リ  
 有ヘシ何分年久シキ頑習故狎カニ變シカタシ然  
 氏モ是才心得テ服ハ改メカタク斥責テ服色ヲ以テ  
 尊卑ヲ定メタキ旨ヲ述ヘオカレタリ是モ尤ナル丁

也奈色ハヤミ行ナハレハ易キ方ナルヘシ既ニ服色  
 ノ定メ有ナハ今マテ用ナレサル色ハ目ニ立テ宜シ  
 カラス黒色紺色花色鶯色萌黃淺黃、玉子青褐黃褐  
 ナトニテ随分ミルヘシトテモノ丁ニ烏帽子直垂利  
 衣素袍ノ制ヲ復シ專ラ用ヒソレニ服色ヲ加ヘタノ  
 ハ十分ナルヘシ但シ直垂ハ下ハ大ヒナル故ヨシ符  
 衣ノ指貫素袍ノ袴ハミナ裾ノ長クシテ不便利ノモ  
 ノナレハ今ヨリ改テ半袴ノ如ク短カクシテモヨシ  
 ラン長上下ハ廢シテモ苦シカルマシキモノ諸國陪  
 臣マテモ此制トナルヘクハ見コナル禮儀ノ俗ト云  
 ヘシタミ直臣ニテモ陪臣ニテモ輕キ人ヨリ庶人マ

テハ肩衣半袴モ然ルヘシ下賤ノ禮服ハヨレニテス  
ミタリ又庶人マテモ素袍烏帽子ヲ着スルニ禁ハカ  
カルヘキノミ  
一鳥帽子ノコトハ愚カツテ故老ニ聞シニ立鳥帽子折  
鳥帽子士鳥帽子ナト造リ付ニ仕立ルハ後世ノコトナ  
リ古ハタミ一様ノ鳥帽子ニテ小鷹ノ紙ニ漆シテ制  
シタルモノ或ハ云紙ハ小鷹ニ非ス柳サヒツノ折ヤ  
ウ用ヤウニテイロミニ變スルナリ故ニ古代ハ鳥  
帽子折ト云モノアリテソノカタヲツケテ商ヒシタ  
ルコトニテ尊貴ヨリ卑賤マテ一統ニ是ヲ着スルナリ  
ソノ形上ヨリ抑ユレハミナ墊ケテ首ノナリニ於ル

ソノ墊ケタル上頭ヲ撮ミアケテ一ツ捻レハ圭首ト  
ナリテトマル是今ノ侍鳥帽子ナリ士大夫ノ平居出  
入往々コノ通りニシ恭敬ヲ加フル時ニ引直スナリ  
賤者ノ役ヲトリ工匠ノ業ヲ作スニ帽子サハリテ妨  
タクル故引コメ置テ常ナレハ侍鳥帽子常事トナリ  
タリコレヲ半引アケ左右ヘヲレハ左折右折トナル  
ミナ引ノハシ前ヲ淺クタミケハ直立シテ豎鳥帽子  
トナル後口ヲ深ク扣ケハ半ハ後口ヘヲレテ折鳥帽  
子ナリソノ輕キハソハタチテ風折鳥帽子トナル古  
キ記録物ニ諸士ノ君所ニツメ居ルヲ主人ヨリ召ル  
ニ時鳥帽子引立テ參ルナトミカキタルハ右ノコトナ

リ甚面白キヲナルヲ後世ニテ是ヲ知ラス又律法ヲ  
 好ムヨリ造リ付トナリ一ツニテスム烏帽子ヲイテ  
 品モコシラユルヲ大ニ古意ヲ失ヘリ今人士烏帽子  
 ハ別々見苦シキモノトナリタリ是ヲ着スルモノ後  
 ロワケニ剃頂ヲムキ出シアヤシキ所ニ組ヲツケテ  
 カツテ首ノ服トハ思ハレ又姿トナリ厭ヒ惡ムヘキ  
 モ人也直垂素袍ナトモ古ヘハヤハラカナル布帛ヲ  
 用テ體ニ便ナルヲ後世是モ律法ヲ好ム故ニヤ糊ニ  
 テ固メコハシリテ見苦シク身ノ自由モ出來ヌヤウ  
 ニナリタリソノ上平日烏帽子アレハ大夫ノ髮ニハ  
 膏ハイレヌ衣衾ノ垢ツキ汗ルミトモ今ノヤウニハ

ナ久素袍ナト又出下ニ何ヲ着シテモ苦シカク  
 スツノ袴ノ如キヨリ下ノ服ノ少シ見ル故下ノ服損  
 スルハソノ所ハ九ノ新シキ絹ニテ飾リ或ハ服色ト  
 ナカビ絹モカマヒナク用ヒ又ハ無地ノ服ニ烏絹ヲ  
 用ヒテ補ヒナリシテ妨ケナカリシ是今ノ熨斗目ノ  
 腰替リノ濫觴也古代儉質ノ風貴ヲヘキト也ト先儒  
 ノ論ニモ見エタリ此ト今日粹ニ行ヒカク徐ニ  
 トメ挽回スルノ方アルヘキモノニヤ  
 一ノ學校ノ事  
 在ノ學校ノ教ヘノ治道ニ切ナルヲ虞夏商周ノ古ヘ  
 ハ申スニモ及ハス後世ニテモ道ヲ重ンシ治ヲ求ル

明主ニヨノ設ケノ欠タルコトナキ然ルヘキ筈ノコト也  
我邦ニテモ奈良ノ京大寶年中ニ始テ學校ヲ設サセ  
ラレシヨリ今ノ京トナリテモ大學寮ノ制度完備ノ  
事ニテ藤氏ノ勸學院源氏ノ淳和獎學兩院ナトコト初  
メトシ何ツレモ盛シナルコト也シニ世換リ風移リ次  
第ニ廢滅シ中間數百年ノ兵戈ニ跡モ形モナクナリ  
タルハ寔トニ惜ムヘシ學校ノ衰ヘハ世ノ衰フル基  
トナルコトナレハ是ニテ其時ノ人ノ治道ニ暗カリシ  
モ亦知ヘシ國家ニ長タル人豈心ヲコシニ留メサル  
ヘケンヤ慶長韃靼人初メ馬上ニ得玉ヒテモ馬上ニ  
治メ玉ハス早ク惺窩ヲ禮待セサセ玉ヒツシイテ林

家ヲ撥擢シ玉ヒ天下ノ遺書ヲ蒐索シ玉テ大ト治本  
ニ達シサセ玉フノ德意實ニ前代ニ卓越シ有カクキ  
御事ナリシカ天造草昧ニメ禍亂新タニ定リタル時  
ナレハ世ハタシ長槍大劍ヲ知ノシニ僧法師ヨリ  
外ニ冊子ヲ挾ム者モナキホトノコトナレハ狎カニ建  
學ノ御沙汰ニ及ハセラレカクキ勢モアルヘシ故慶  
長季年ニ治化已ニ浹カリシ比京師ニ於テ學校御建  
立ノ御催ニテ林家ニ命シ既ニ場所マテ御卜定アリ  
シニ大坂御陣起リ兩年ニメ凶器長ク縮マリタレハ  
程ナク神遊アラセ玉ヒ學校ノ御沙汰ハソノマメニ  
ナリ遺憾ノ至ナリソノ後昇平ノ美林家ノ學盛ニシ



興り元祿年間大成殿ノ御設舎菜ノ御式ナト濟ニ夕  
ル御下夕ニ士庶ノ學マテニハ未夕及ハセラレサル  
所ニ享保初年ニ菅野彦兵衛願ヒ立本庄ニ於テ地ヲ  
賜リ學校建立アリ初テ平民マテ講習ノ所ヲ得夕リ  
ソノ比ニ上ノ思召ニ京大坂ノ地モ願出ナハ學校仰  
付ラルヘキト人御趣ニテ大阪ニ於テ吾先人忠藏仰  
願申シ上ケ是又地ヲ賜ハリ除地諸役御免トシテ懷  
得堂ヲ建立シ學風大ニ振起シ數十年來絃誦絶工ス  
今愚拙ノ乏ヲ兼ルサ工講習依然トメ四方業ヲ問ノ  
人跡ヲ接シ先子ノ遺蹟退轉ナク永久ニモ傳フヘキ  
勢アルハ是偏ニ公恩アリ難キ御下ナリ右ハ比京師

二ハ學校ノ下ヲ擔當スル人モナカリシニヤ何ノ少  
汰モナクメ今日ニ至リ是又惜ムヘキ下ナリ唯今御  
新政ノ美ニテ右文ノ化隆ニニ行ハルニニ付テ林家  
ヲ提擲アリ舊弊ヲ革メ學風ヲ正シ諸儒鴻漸ノ羽儀  
アリ儒教方ニ盛ニニテ海内目ヲ拭フニ至レリカニ  
ル御時節ニアタリテ京師ニ學校ノナキ下海ニ邦家  
ノ光ヲ失ヒ一大欠事トスヘキホトノ御下ナレハ因  
循放過スヘキニ非サルヘシ是ニ因テ愚拙ノ先年故  
アリテ京師學校ノ下ヲ竊カニ議シタル本末ニ今日  
ノ見所ヲ加ヘ左ニ具ヘテ異日國家ノ未用ヲ待ト云  
一往年高辻黃門公京師ニ學校ノ廢絶シタルヲ深ク

嘆カセラレ古代ノ規ヲ摹シ管家ノ學ヲ設ラレタク  
以二院ノ御所へ内奏ヲ經サセラレ時ノ關白九條殿  
下ニモ御聞濟アリ經費ハ加賀南部へ托セラルヘク  
モハヤ東旨ヲ伺ハセラルミノミニナリタリコレ  
容易ナラサルコナレモ萬一官許ヲ得テ建學ニ及ヒ  
タラハソノ規模制度ハイカミスヘキトテ是又内ニ  
勘考アラセラレ愚拙ハカ子テ懇遇ヲ得ル故アル時  
召レテ諮詢アリシマニニ愚意ヲ一通リ演說シ尚又  
退テ畫一割子ヲ具ヘテ是ヲ詳カニシ建學私議ト名  
ツケテ又鄙見ヲ以テ新夕ニ圖式ヲ裁シ并セテコレ  
ヲ獻セシニ甚悦ハセラレ内ニ殿下ニモ呈セラレソ

ノ後二天覽ヲモ歷タリナト仄カニ承ハリタル恐  
多キ御事ナリシサレモ比東關政府ハ文事ニ邊  
落タル御コナリシカハ管公ヨリ仰立ラルニ端緒モ  
ナクソレナリニナリシハ嘆スヘキノ甚シキナリソ  
ノ後鄙撰ノ私議圖式ナト尾藩ノ士大夫中ニ取傳ヘ  
テ料ラスモ尾公ノ御前ヘモ出タルニ思召ニ叶ヒテ  
寫留ヲ仰付ラレシト聞及ヘリ是又恐入タル御コナ  
リソレヨリ程ナク京師回祿ニテ右等ノコトハ一向灰  
滅塵斷シタレモ折シモ世道一變シ今日右文休明ノ  
世トナリ皇居モ追々御造畢公卿庶尹ノ第家モ漸  
ヲ以テ成就ナルヘク今一兩年ノ内ニハ右ノ舊議モ

再發ノ機會ニ及ヘキニ似タリイヨミ、國家ニ此事  
施行アラセラレハ場所ハ御築地内ノ東南隅ナト然  
ルヘキカ其正門ハ丸太町ニ向ヒ地面ハ築地ノ内ニ  
有テ別ニ仕切テ一區トスヘシ大氏二十間四方ノ地  
ナルヘキカ此所ソレ程ノ空閑ノ地アリシト才ホ工  
シカシ追々朝紳ノ第宅ニ迫リテハ右ホトノ地ハナ  
キヤウニナリシヤシカトハ記存セス是ハ格別ノ丁  
故重カラヌ朝紳ノ宅ノ迫リタル分ハ外ヘ移シテモ  
苦シカルマシナトカ子テ菅公ニモ御沙汰アリモシ  
宅ヲ移シテ苦シカラヌナラハ迎ノ丁ニ界町御門ノ  
外ノ東側ノ地御築地ニツミキタル所尤モ宜シカル

ヘシコノ所ハ朝士ノ宅二三軒夕千竝ヒタリ空地ハ  
ナケレ尺コノ二三軒ヲ少東ニ徙シタラハ十分ナル  
ヘシ御築地ノ内コノ外ニハ場所ナカルヘシ北ノ端  
ニハアリ尺大ニ便利ナラス故ニモシ右ノ二ヶ所ニ  
テ下定シカタキワケモアラハソノアタリノ京極通  
リノ寺院并ヒニ町屋ヲ少々外ヘ徙シ五六十間四方  
ノ地ヲ拓カセラルヘキカソノ制度ハ大氏鄙撰ノ圖  
式ノヤウニテモ宜カルヘキニヤサテ親王家御一人  
ニ攝家大臣家ノ子弟ノ學ニ就セラルニ進退ヲ司ト  
ラセラレ一代切ニテ替ラセラルヘシ前卷ニ論セシ



如クモシ新親王追々出來サセ玉ハミソノ御中ヨリ  
 領シサセ玉フテ尤宜シカルヘシ學校右ノ如ク設ア  
 ラハ古代ノ大學寮ノ姿ナレハ往年私議セシ管家人  
 學ナトミ限ルヘキニハアラサレモ何分菅清兩姓ハ  
 儒家ノ御テ故ソノ八九軒ノ家ヨリ一人ツク大學頭  
 ニ兼任アラセラレ華族以下總堂上ノ子弟ノ學ニ入  
 セラルミ進退ヲ掌トラセラレ三年切ニテ交替アル  
 ヘシ是ハ頭ニ付タル常祿アリテ次ニヘ祿共ニ傳ヘ  
 ラルヘシ外ニ兩家人内ヨリ一人ツク頭ニサシ添テ  
 勤アルヘシ大學頭ニ權官ハナケレモ見習ノ爲又ハ  
 頭ノ故障ハ節代リテテヲ執セラレミ爲也夕々本官

ハマニテ別ニ學官ハナク一年切ニテ交代有ヘシ  
 是ハ役料ノ定メアルヘシソノ次ニ東關御儒臣ノ内  
 カ又ハ新夕ニ御抱ヘ入ヲ以テ大學助ニ任シ師儒ノ  
 去就生員ノ増減又ハ地下官人出席ノ進退ヨリ凡民  
 ノ俊秀貧學生徒之ヲ掛引テ司サトリ總云ノ校事  
 ノ管轄スヘシコノ下役四人アリテ大允小允大屬少  
 屬ニ任シ書籍道具ノ出納講序會序ノ掛設修覆方勘  
 定方ナト役割ヲ以テ務必菅清兩家ノ家臣ト立合テ  
 取計アルヘシコノ助允屬トモ多少ノ常祿アルヘシ  
 サテ師儒ノ任ハ縣官ニソノ人又ラハ申スニ及ハス  
 ナレモ先ハ有ニクキモノナルヘケレハ廣ク一世ニ

求メ諸國ノ陪臣ノ内ニテモ平民ニテモ身分ノ差別  
ナク又、才徳優長ナルヲ選用シ何分ニモ禮ヲ厚ク  
シ招キ致スヲ要トスヘシ輕ク招キテハ來ル者ハ  
賢ニ非サル故ナリモシ終身ト云テハ得出サルモ  
ハ年限ヲ立テ交代セシムヘシ貫首ノ一ハ博士ニ任  
シ或ハ教授ト稱シ次ニ三人助教ニ任シ訓導師勿讀  
師ト四五人詩文并ニ筆道ノ指南ハコノ諸人ノ内  
ヨリ兼ヘシ朝廷ノ典故并ニ公武ノ式ニ達シタル人  
樂ニ堪能ナル人天學ニ長ヌル人算學ハコノ内ニ寓  
ス是等皆局ヲ分チテ問ヲマツベシ凡右ノ分博士助  
教ハ常祿アリソノ餘ハ役料月俸ナトノ定メニテ

夫一代切ナルヘシ子孫ハ大方愚方ルモ故ナリ  
シ賢ナラハ別ニ招キ致メ任用有ヘシコノ諸人始テ  
ノ擇ミ肝要也後ハ年ヲ經ル内ニ追々遊學生ノ内ニ  
リ詮序シテ別ニ擇ムニモ及ハサルヘシ聖堂ノ制度  
舎菜ノ禮式大凡ハ朝廷ノ典故ノ殘存タルヲ考ヘ合  
セ東土大成殿ノ成規又ハ族隣備前長門ノ學校ナト  
ノ様子雜ヘ采テ以テ儀制ヲ成ヘシコノ餘ハ往年管  
公ニ呈セテ割子ニ見エタル分ハコノニ略ス併セ接  
スヘキヲ往々ニ有ヘシ  
一大坂ハ兩都ニ列スル大都會ニメ四海ノ輻輳スル  
トコ口繁華甚クソノ風俗調ヘカタクノ壞レ易ク

山形縣志卷之二  
一  
一

レハ是又屹度シタル學校ノ設ナクテ叶フヘカラス  
ソノ場所偏僻ナトニテハ益スクナシ隨分場中ニ在  
ヘシ是ハ船場ノ内ナルヘシ船場ニトリテハ東北ニ  
ヨリタルホト宜シトスタ、府下ハ尊貴ノ人甚少ナ  
ク平民ノ多キ所大レハ場所ハサマテ廣大ナルニ  
及ハス市中ノ街衢大氏豎横トモ四十間ニ限リタル  
節大レハソノ成規ヲ用ヒテ四十間四方ノ地ヲ官ニ  
御買上ケアリテソノ民ヲ徙シ學舎ヲ設サセラルヘ  
キカソノ制度ハ京師ノ學ニ准シ地面相應ニ諸事減  
省アルヘシ至管外ノ官祿及リテ庶務ヲ統領スヘシ  
教導ノ人ハ平民ヨリ選用アリテ是ハ役料月俸ナト

ニテ常祿ナク一代切ナルヘシ人数色目支給ノ類是  
又京師ヨリ減スヘシ坂學ノ下右ノ如クハ中スモノ  
ニ成中寸土寸金ノ地大レハ右ノ場所皆御買上トナ  
リテハ費ス處モ少ナキニ非ス又借宅ノ者ハ外ニ移  
ルモサシテ妨ケサレト家持住居ノ分ハ遷徙ヲ患フ  
ヘシソノ上右ノ宜シキ場所ハ多分豪商ノ居宅ニテ  
百數十年來住ツキタルモ多カルヘケレハ別ノ遷徙  
ヲ重ンスヘシ學ヲ興スハ格別ノ下ナレハ是等ハ顧  
ルニ違ラスト云ヘケレト上ノ御仁慈御節儉ニテハ  
右ノ二項ハ同シクハ兩ナカラカニニ思召ルニ方  
ニモアラハコニニツアリ京師設已ニ圓備アリタ



ラハ大坂ハ又大ニ事ソキタリトモ苦シカルマシ因  
テ思フニ大坂ニ於テハ前文ニ述ル如ク幸ニ先人願  
受タル場所愚拙ノ今守ル所ノ一小校アレハ是ヲ少  
シ開拓シ増飭メ官校トセサセラルヘキニヤコノ場  
所ハ大氏宜シキ地ニテ表口十二間ハカリ裏行町並  
二十間也厩カニ講堂ヲ設ケ子舎ヲ具ヘ游學生十數  
人ノ寄寓ヲ辨スルノミ是ニテモ一分ノ私校トスレ  
ハ隨分事足又ソレサヘ講説ノ時ハ堂上ニ聽衆居餘  
リ玄關ノ式臺マテ厩カニ膝ヲ个レ寒夜ノ節ナト甚  
夕氣ノ毒ナルモノナリ中ニ官校トスヘキ設ケニハ  
非ス最初ニ官命ヲ奉メ設タル故私ニ非スキツト公

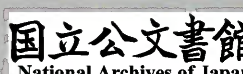
儀ニ立タル場處故世間ニ云ハ公儀ノ學校ト唱フ凡  
中ニサルホトノ一ニハ非ス今是ヲ開拓セシハ建物  
ノ勝手東ヲ益ハ用ニ立ス西ヲ益テ甚ク便利ナリ幸  
ニ西隣ハ横町マテ表口十三間ハカリ裏行町並ニ十  
間ノ家アリ内表口四間ノ家ノミ家持居宅ニテ跡ハ  
皆借屋ナリ外徙ニサシテ患ナク右家持モ小家ナカ  
ラ産ノ厚キモノ故是又外徙ニ難澁スルヲ夫加ルヘ  
シ御買上ケノ費モ初ニ云如ク新夕ニ場所ヲ卜定ア  
ルトハマツ八分ノ一二テ濟ヘキサテ是ヲ以舊校ニ  
加ヘハ講堂モヨホト廣クナリ聖廟モ大氏ノ規模ニ  
設ラルヘク教授助教ノ役宅ナト云ヘキモノモ用意

大夕尺推出メ公儀ノ學ト云程ノ丁ニハナルヘシ  
コノ造作ノ費モ初メニ云トコロニ比シテハ三分ノ  
一カ五分ノ一二テ辨スヘシミナコレ最簡極便ナ  
ナルヘシモシ又右ノ官地トナルヘキ所ノ裏尻ヲ隣  
町へ打ヌキテ御買上アラハ是モ裏行町並ニ十間ニ  
テ幸ニ隣家ノ入組モナク表口モ同シ久十三間ハカ  
リナルヘシ是モ家持ハ一人ニテ跡ハミナ借家ナリ  
カクアラハ聖廟講堂モ又ヨホト廣クナリ教授助教  
ノ役宅モ寄宿生ノ子舎モ宜シキ亦トニ取繕ハルヘ  
シ又舊校ノ裏尻モ此ニ開拓シテ一區トナラハ十分

ノ丁ナルヘケレモ是ラハミナ隨テ得テ蜀ヲ望ム人  
談大ニ取テ請サレ人ニ但シ右ノ如クニテハソノ  
大小狹濶ハイツレモ云モ官地ト舊來ノ辨領地ト接  
連混雜シテ不興致スルヤウナレモ此  
裏行町ナハソノ時官ヨリ指揮モ下ルヘシ下ヨリ議  
スヘキニハ非サル尺試ニ擬議セシマコト混シテ  
アシクハ愚ノ守ルトコト以人除地ヲ獻上シテ一所官  
地トスヘキハ先子公初メニハ諸同志ノ者ト議メ  
コノ校ヲ設ケシモ何トソ永久ニ傳ヘテ退轉ナキヲ  
欲スルヨリ主意ナレハ令官地ト併セラレマコト  
ニ永久此上モ大キ御事ナルヘシ公今日ハ諸同志

二於テモ本望ナルヘキカ拜領地ヲ子孫ニ永久傳ヘ  
 ンナト私計ニ非サルコト先子宿志明白ナレハ今コ  
 ノ序コト談ニ及コナリ  
 一奈良界大津池田西宮兵庫ヲトソ以外諸國大小都  
 會ノ地公領ノ分ハソノ地ノ様子ニ從ヒ大小庠序ノ  
 設アルヘキカソレミ土地ノ品モアルコナレハ通  
 ノ一様ニハ定ムヘカラス何フニ官ヨリ少シカヲ加  
 ヘ玉ハミソノ地興起スルモノ有ヘシ多年ナラヌメ  
 ソノ備ヘオノツカラ成ヘシ堺ナト已ニ近年ノ内ニ  
 ソノ催シアリテ本衙ノ使君ニモ内分カレコレ心ヲ  
 用ラルミトモ聞及ヒタレハ上ヨリ一揮シテ成就ス

ヘキ勢ナリソノ餘ノ諸國ノコトハ愚拙ノ窺ヒハカレ  
 所ニ非レ氏西國筋ナトソノ機會ヲマツ人有氏ホ  
 カニ傳ヘタリ合  
 一儒者ノ事  
 民間ニテ儒者ト云名目ノ立サルコソアヤシケレ草  
 昧ノ世ニテ卷ヲ執モノヲ僧法師ト一視シタル時ハ  
 昔モ有ヘシ昇平ニ百年ニ近メ文運追々ニ開ケタル  
 今日ニ於テ餘リ不都合ノコナルヘシ尤モ朝廷縉紳  
 中ニ儒家ト稱スルアリソレヨリ公儀侯國ニ及フマ  
 テ儒者ト稱アルハ表立タル所ニハ皆ソノ名自立タ  
 レ氏ソレハ博士文學ノ職ニテ高下氏仕進ノ人ナリ



大中元來儒トハ學シテ未タ仕ヘサル人ノ名目ナレ  
ハ民間ニアル學者ヲ主トスルナリ然ルヲソノ本稱  
ニ入ス民間戸籍ニ登ラサル故儒者ノ分往々鑿名ニ托  
シ又市中ニテ屋號ナケレハ得心セヌ者モ多キ故工  
商ノ名ニ托シ僦居スルナトアマリ淺間シキ下也但  
シ儒生ハ貧窮ナルモ人ニテ中ミソノ業ニテ一身餬  
口ハ便リモ出來カタクマシテ上ニ老アリ下ニ幼ア  
レハ凍餒ヲモ免レカタクマシテ上ニ老アリ下ニ幼ア  
術ヲカ子又ハ合藥ナトヲ便リトシ商賈ニ混スルモ  
アレハヨノ分ハ是ニテ姿ニテ儒名ヲ立スシテ可  
ナリ多キ中ニハ儒業ヲ專ラトシテ貪ヲ甘ンシ窮ヲ

シ他事ヲ顧ミサルモアリソノ才徳ハ長短ハ小  
モ有ヘケレハ其志ノ確ナルハ同シコノ分ハ町在マ  
テカノ行跡ヲモ糺シタル上戸籍ニ儒者トシルシ其  
所ヨリ申シ出シ次第官ヨリ苗字帶刀ヲ免許アラセ  
フレタシモシ後日ニ行跡正シカラヌ聞ヘアラハ其  
時苗字帶刀ヲ召上スルヘシ三都ヲ始メ諸國公領ミ  
ナカクノ如クナリタラハ儒風ヲ振起スル端トモナ  
ルヘシ元來京太坂ニテ市中ニ苗字帶刀ノ者ノ住  
居ハ禁制ナレハ是ハ武門浪人ヲ禁セラルニニテ儒  
者ヲ禁セラルニハ非ス紛ラハシキ故一處ニ禁セ  
ラルトトノ事ナレハソレハ教授ヲスルトセヌニテ

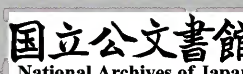
ノ人分チハ明白ナルヘシ京師ニハ宿坊届ケ来云モ  
人ニテ儒者帶刀ノ住居ヲ官許アレハ大坂ヨリハ  
工ルヤカナルヤウナレバ儒名ノ人トシテ浮屠ノ受  
負ヲ以テ住居スルトハ甚タ本意ナラヌナリソノ  
上武技ヲスル浪士カ教授ヲスル儒生カト云フハソ  
ノ所ノ者ハ改ムルホト明白ナルハナシ他處ニアル  
宿坊ノ詳カニスル處ニハアラシ故ニ京師モ宿坊ノ  
届ケヲヤメニシテ町ヨリ届ケサセタキモノ也道比  
京師ノ宿坊届ケハ禁シラレタリト云ツノ  
アトハイカニ定リシヤ其詳ナルヲ知ラス  
一アカリタル世ニ問卷ニ至マテ皆學アリト見エテ  
閩師塾師ナト稱シサセル才力ナクテモ童幼ノ師ト

ナルホトノ覺エアレハソノ所ニスエオキテ村里賤  
民マテモクマテ知ル下也シ已後世ニ村學家  
師杖稱スルモノ是ナリ今ノ寺子屋ト云モノ此類ナ  
リコノ寺子屋各月ハ由來モ久シカルヘシ數百年前  
喪亂ノ時村々世人ハ金革ヲ推ニシ戈ヲ枕トスルニ  
シテ亦書ヲ讀ムモノハ浮屠ヨリ外ハナカリシ故外  
ニテ亦冊ヲ狹ク者天以ハ僧法師ハヤウナリト嘲リ  
タルヨリ記録ノ物見立外ハ皆民間ニテ子弟  
ニテ亦カキサセント思フ者ハ方コレヲ近邊ノ寺  
院ヨリカハシタルト云フ邊土遠境ハ今ト云フモ尚然  
ルヲ以テ故兒輩ノ寺子屋ト云ハヨミ書ハ下ニナリ



タリ御治世以來俗尚文字人用ハ追々弘久ナリ都會  
州地ニハ手跡算術ハ指南又ハ少童ハ素讀或ハ諸禮  
小諷ナド教ル者多ク邦中諸率及古是ヲモテ以テ不  
入心ヤウ等ナリ在郷ニ五相應ニ算筆ニ通シタル者  
ナ引キ世間キ子第ヲ教ヘ或ハ村方年分公私ハ書キ  
物金穀ヲ勘定ナドサスルヤウニナリタルハ今ハ上  
國ニテ何モ寺院ニカテ遊ル事ハナキヲ昔ハ積習ニ  
テヤハリ寺屋寺子寺人來覺工世間一統ナルハア  
ハ文盲至極ナドハ御時節ニ甚ク不相應ナリ何ト  
ハハ師ヲ手跡師ナド呼セタキモノナリ或ハ俗ニ  
從日司ハ字ヲ用心モ可ナリ屋ヲ以テテ子ハ合點セ又

習俗ナレハ細民ハ手跡屋ト覺工テモヨシ寺子ヲ手  
習子守入ヲ入門又ハ門入ナドイハセタキヲナルハ  
シコノ輩ハモトヨリ古ヘノ塾師ノ類ニテ昇平ノ風  
化ニヨリ上ノ令ヲ待ヌメ閭巷ニ滿ルヤウニナリ又  
リ何レモ一分渡世人私計ニハ出レトモ自然ト上ノ  
政教ノ一ツモ備ハリテナクテ叶ハヌトモナリ然ル  
ヲ民間ニテハ屋號ノツカ又無商賣人住居ハナラヌ  
トト心得テ右ノ輩モミナシハ何トナリ凡屋號ヲツ  
ケ賣人ニ托シ僦居スルヲ一統也餘リ不自由ニテ文  
化ノ體ヲ失ヒタルモノナルヘシ尤モ子弟ヲ率ユル  
身分故藝能ハマサリタルトモ行跡宜シカラ子ハカ



ノ人ノ子ヲ賊フコアルヘシ是ハ又ヨク擇ムヘキノ  
事ナラニ故ニ官命下リ町ニテ人柄ヲヨク開合セ  
テ住居サスヘシイヨミト麤莽ナラヌ人物ナラハ町  
ヨリ申シ出次第苗字ヲサシ許サレモシ後日不法ノ  
コアラハ苗字ヲ召上ラレ處ヲ逐ノケ別人ヲ差置ス  
ヘシコレニテ賞罰氏明カナラハ風化ノ萬一ヲ助ク  
ルヤウニナルヘシコノコソ瑣細ナルコトナレ氏大勢ノ  
子弟ヲトリ立ルコトナレハ目前ニテサシテ人利害ナ  
キヤウナレ氏後日ノ風俗ニ於テ大ニ關係スル場ア  
ルコト故ソノコソ等閑ニハナスヘカラサルモノ存ス  
一在邊ニテ貪色小聚ナトニ道心者如キ僧ヲ招キ人

カ物カキニ使フ所多シ是ハ家累モ太久世話薄クニ  
代切ニテアトニ事残ラヌヲ簡便ト心得テスルコトナ  
レ氏カニル出家ハ頑鈍愚昧ニテ何人用ニモ立モノ  
ニアラス村方子弟ノ爲メト存シモヨラス費ハ輕ク  
テモマコトニ冗費ト云モノ也ソレヨリヤコリ俗人  
ノ才覺ナルモノヲ招クヘシ一兩人家内アリテ少シ  
村ノ世話多ク氏總掛リノコトサシテノコトニモ非ラス  
又相對ノ仕方モアルヘシ醫ヲ兼ルナト別メ村ノ用  
ニ立ヘシ其子弟頑愚ナラハ水呑百姓トシテ又別ニ  
大ヲ招クヘシ少シニテモ村ニ人ノ多クナルハ末ニ  
所ノ爲メニナルコト大レハ心アル人ハ好ニテモスヘ

其傳... 草... 卷二... 六

下也但之是八村方ヨリ撫育ヲ受ル者故上條ニ論  
スル苗字ヲ免許アル類ニ公上入至テ微細ノ下ナ  
レ氏序ニヨリニ述ルト云是邑宰タル人ノ一指喉ニ  
在リ... 外船互市ノ事... 明清並ニ諸蠻夷互市ノ其來由モ久シイ哉足利氏  
ノ時宇内寧謐セサル故互市ニ托メ貨物闌出入害多  
ク大内氏勸令ノ印ヲ失ヒ大友氏海關ヲ撤シ盛ニ二  
外夷ヲ招キシヨリ益記極モナキトナリユキ織豊  
二家ヲ經テモ禁切ノ法以テカ下立カク御當家ニ及  
ヒテ草味ノ時ハ子細アリテ多久蠻戎ノ互市ヲ許サ

セ玉ヒシ故一旦輻輳セル外國是マテ遂ニ至ラサル  
遠夷マテ來リツトヒタレ氏昇平ニ從ヒ追々謝絶ア  
リ清國モ信牌ヲ以テ船額ヲ定メ外ハ紅夷ノミ奸商  
ノ禁モ益嚴ナレ氏何又ニ宏濶無際ノ海上ニ慾孔ノ  
塞カリカタキ人心ナレハ此害ヤミカタク又承平修  
靡ノ風ニ從ヒ外國モタニ華飭寶玩珍禽奇卉ナトノ  
無用ノ數ヲ盡シテ持渡リマスニ害アリテ益ナク  
最初ニ互市ヲ開カセ玉フ思召トハ大ニ相違ノ事ニ  
ナリ來リタリ但世人ハ姦民ノ私ニ外國へ金銀ヲ盡  
シ捨ルヲ深ク歎ケ氏愚ハタニ官ヨリ公ケニ銅ヲ多  
ク發兌アルヲ惜ムイカニナレハ金銀二品ハ必竟何

出修齋叢書 草部卷二 五十二

ノ用ニ夕ニ又物大レハ乏シキトテモ事カニス銅鐵  
ノ二品ハ民用ニ甚切ニテ鍊ハ云マテモナク大切ナ  
ルモノ銅ハコレニ次テ甚夕便利ノモノナリ故ニ生  
銅ヲ年ニ夥シク外國へ抛テ棄ルハ惜ムヘキ人甚シ  
ク也譯撰ノ逸史ニ嘗テ此事ヲ論シタルヲアリ略ス  
右逸史ニ記ス所モハヤ二十餘年前ノナリ近來御  
新政ニテ中興ノ業赫ニトシテ互市ノヲモ廟堂ノ深  
念ヲ勞ヒサセラレ忝歲カ外舶ノ歲額ヲ減シ貨ハ藥  
品ヲ主トシ無用ノ珍玩ハ禁切アリ因テ銅額ヲ省約  
セサセラレシナト仄聞セリ是愚ノカツテ竊カニ議  
セシ所ト符合シ愚ノ論中ニ治體ニ達スル人必スコ

レヲ處スルアラント云シハコレヲノナリ世ニ有  
カタキトヒナリ然レハコノヲハ最早草野ノ議ニハ  
及ハサルヲ今夕夕ニシクコノ條ヲ舉ルハ俗ニ謂  
ユル瞿曇ニ對メノ說經ナルヘケレハ削リテ宜シケ  
レヒ創業ト守成ニツキテ互市ノ品人有リ并ニ先儒  
ノ卓見ナカラ金銀ヲ銅ト一視シテ差別ナク一世ノ  
人ハ夕々金銀ヲ渡スヲ惜ミテ銅ハコレニ次ヤウニ  
思フ所ニ遺議アル故コノ條ヲ存シ置クト云  
一縣官ノカ子テ銅額ヲ隨分省略シテ他物ヲ以テ是  
ニカヘサセラルト理ノ當然夕夕其品ハ何ト云ト審  
カニセサレヒ海參串貝數ノ子昆布荒和布美濃紙ノ



和傳齋叢書 草葉庵言卷二

類トキクツノ外品、アルヘケレト久工テ知入因テ  
愚意ヲ以テサルヘキ品ヲ計フルニソノ内ニハモハ  
ヤ年來官ヨリ渡サセラルル品アリテ今サテ歟、ヲ  
待又モ多カルヘケレトソレハ知サルコト故先ツ試ニ  
陳列スルナリ紙ニテハ勿論美濃紙第一ナルヘケレ  
トソノ外美濃小杉美濃半切大直シ唐紙代リノ大紙  
サテハ奉書杉原岩國半紙加賀半紙大半紙宇多仙花  
尺長筑前豊後日向ノ半切越前繪奉書雲形紙薄椽鳥  
ノ子行成紙漆紙藍ノ花ノ類ナホ名産ノ品、有ヘシ  
我邦ノ紙ハ萬國ニスクレタル故外國ニテ賞翫モ深  
カルヘケレハ隨分多ク渡スヘシ墨ハ古梅園ヲ始メ

諸名墨ノ形模高雅ナル分硯ハ赤間關高島石ナトソ  
ノ外ノ器物ハ扇子團扇傘日傘菅笠菅簍スヘテノ塗  
物時繪ノ諸道具京伏見界尾張備前平戸伊萬里ナト  
諸處ノ陶器京細工ノ人形小間物駿府有馬ノ竹細工  
江戸伊勢ノ合羽ノ類絹布ハ加賀絹丹後島八丈島博  
多織越後チ、ミ奈良晒仙臺ノ紙布紙子肥後紙子ノ  
類數々也食品ハ諸國ハ名産數限リモナク狎二筆二  
ハ蓋シカタシ干大根干蕪椎茸刻燭草并ニ石燈籠ノ  
火袋ナト外舶甚々好ンテ求ムル由ヲ聞及ヘリ何ヨ  
リモ第一二渡シタキモノハ此方翻刻ノ書籍也多キ  
中ニモ取ワキ孝經四書五經集註左國史漢ノ類新夕

出修齋叢書 草葉庵言卷二 五十一

二無點二官刻アリテ美濃摺薄ヤウ搦ニシテ渡シタ  
キモノナリ或人ノ茅議雜扁ニ是ヲ詳カニス采用ア  
ラセルハキニ似タリサテ永久ノ恒例トスヘキニハ  
アラ子氏臨時ノ便利ヲセハ近來御節儉ノ令ニテ都  
會ノ地ノ呉服店ノ分通例布帛ノ商ハ繁昌スレ氏年  
來仕込才キタル錦繡綺縠類總鹿子天鵝織金人帶地  
綉ソ襖紗地ナト長物トナリ一向售サル物夥シキコ  
ニテ相應ニ損失有氏賣拂タク思ヘ氏買人ナキニ困  
リ居ルヨシ是ヲ官ヨリ廉價ヲモテ追々御買上ケア  
ラハ大二悅テサシ出スヘシ是ヲ集メテ互市ノ手當  
トナラハ暫クノ年數ハヨホト銅額ノ助ケトナルヘ

ク公私に益アリテ便利スルコトナルヘシ 近比町立正  
戸ノ呉服店

ノ賣サル品ヲ官へ御買上アリシヨシ是ハ愚ノ料  
ル所ト同様ノ思召ニヤイカンソノ詳ナルヲ知ス

一藥種ハ申スニ及ハス和産ニテスム分ハ持渡リヲ

停メ緊要ノ藥石ニ上下ノ品アルハ上品ヲ渡スヘク

官命アリ宜キヲ揣リ價ヲマシ下品ヲワタシタラハ

格別ニ價ヲ減シ軍子テワタサヌヤウニ懲シソノ外

ノ貨物モアラハ有用ト無用ト華侈ト質朴ノ品右ニ

准スヘシ

一書ハ追々持渡リナクテ叶ハサルコトナリサレ氏年

來無用閑雜ノ書ノ々來リテサシテ好書アルヲ見ス

平日書林ノ携へ來ルニモ竟ニ題目ヲ聞サル新渡ノ

本ナレハ未夕披キ見又サキニ又長物カト云ニ少シ  
モ違ハサルホトノナリ是ハ彼土モ叔世ニナリテ  
名儒能言ノ流モナキ故又ハ有テモソノ類ノ好書ハ  
ワタサヌトカ是ヲ道路ニ聞クニ官ニテ書物ノ御買  
上ハ價ヲ掛目ニテ定サセラルミ由又聞ニ左ニハア  
ラス然凡書ノ良否ヲ見分ル人ナキ故大部小部ニテ  
ノ高下定マル由ソレナレハ貫目ノ定モ必竟ハ同事  
ナリソレニテハ好書ハワタサヌ答ノナリ故ニ無  
用ノ書ヲ至テ賤ク買廻シテ持渡ルヘシサテミミワ  
ケモナキト也此弊改リ書ノ良否ニ從ヒ價ノ定マル  
ヤウニアリタシ好書ホト高價ニナリ濫物ハ價ナシ

ト云ホトニナリタラハ互ニ大益アルトナルヘシイ  
ツレニモ華人ヲ相手ニスル場所故奉行タル人不學  
無術ニテハユカサルヘシ嗚呼廟堂ニテモユ人御擢  
ミハカタクアルヘキカ  
一鯨鬻甲ハ持渡リヲ堅ク制止アラセラレタキトナ  
リ鯨ハ武用ニ切ナリト世々專ライヘ凡甚夕附會ハ  
説ナリ古來武功ノ人必ヨキ鯨ヲ持タルト云トヲ聞  
ス又ヨキ鯨ナカリシ故アタラ武功ヲ仕損シタルト  
云トモ聞ス捕ハ古今ノ名將信玄謙信ハ兵家ノ尸祝  
スル所ナレ凡イカナルヨキ鯨ヲ所持アリシト云ト  
曾テ聞ス周防ノ大内氏ハ外船勘合ノ印ヲ掌トシ豊

後ノ大友氏ハ大二蠻夷ノ互市ヲ開キ中國九國ニテ  
 上ナキ大家トモナリシカハ定テ天下無雙ノ鮫ハ數  
 ヲ盡シテ所持アルヘシ大内ハ家臣ノ陶全姜ニ襲ハ  
 レ自殺セラレ國亡ヒタリ大友ハ島津ニ切タテラレ  
 豊公ノ太刀蔭ニテ厘カニ國ヲ保チシカ朝鮮陣ニ臆  
 病ヲ働テ以テ改易ニ遇テ滅亡セリカミル時二家ノ  
 無類ノ鮫ハ何ノ用ニ立ニヤ是ニ由テ觀レハ鮫ハ武  
 門ノ妖物ニテ大不祥ノ器ト云テモヨキホトノナ  
 リタミ太平ニナリタルヒ來高價ヲ競ヒ武用ヲ云ク  
 サニシテ觀美ニ供シ衞耀ノ具トスルノミ鼈甲トサ  
 シテ替リタルトナシ必竟ハ馮球カ妻ノ一釵七十萬

錢ニテ王涯カ嘆ヲ興セシ類ナルヘシ玳瑁ハ往昔一  
 旦制禁アリシヲソノ禁網ノユルミヲ伺ヒ鼈甲ト名  
 ヲ付テ互市ヲ始メツヒニソノ玳瑁タルトヲ知レ凡  
 シラヌフリニテ公然タルトナリタリトキク此二  
 物ハ永代堅ク禁制アリテ尤然ルヘキモノ也互市ヲ  
 サヘ禁セラレハ國中ニ用ルトハ制止ナクトモ可ナ  
 ルヘシアトヨリ渡ラサレハ價ハ次第ニ貴クナリ一  
 金ノ物百金ニモ至ルヘシ後ハ王公大人或ハ格別ノ  
 豪民ノ寶物トナルト珍物ノ書畫名瓶同前ニナリ民  
 間ニハ才ノツカラ絶ハツヘシ但シ高價ニナルホト  
 細民ノ軒蘭ノ許盛ニニナルヘケレ凡互市ノ品ノ内

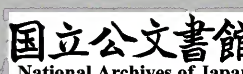


ノ物大ラハ紛ラハシキ故姦モ行ヒ易カルヘシ持渡  
リヲ禁セラレタル上ニテハ世ニ容易ニ持アツカフ  
マシキ故以テ奸モ察シ易カルヘシ

朝鮮外紀

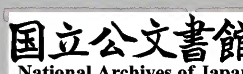
一神功大遠征已來韓國服從朝貢シ我屬國タルト歴  
代久シク絶サリシニ今ノ勢ハ是ニ異ナリソノ故ハ  
御當家ノ初メ豊公漬武ノ局ヲ結ヒ一時ノ權ヲ以テ  
隣交ヲ修メ玉フ御事大リシカハ渠モ已前ノ如ク我  
皇京ニ朝貢スルニ非ス夕ニ好シク江都ニ通スルノ  
ミナレハ屬國トモシカク久聘使ヲ待客禮ヲ以セサ  
ルト能ハズ豊家ニ由ナキ兵端ヲ開カレシ故止トヲ

得スシテカミル勢トナリタルモノ也ソノ諸侯ニ命  
アリテ往及ノ驛次供億盛ナルハ元來日本ノ豊富ヲ  
示サセ玉フノ意ナルヘキヲ侯國ニテ追々取アヤマ  
リ韓使ヲ重シ御馳走ノ益ニナルト心得ラルニ勢ア  
リ因テ兼平已來外ヲ飾テ内ハ窮セル侯國コノ供億  
ノ大費ニ追々甚々困シムトトナリ來リタリ元來撤  
爾タル偏邦ノ使价タトヒ今ハ屬國ニ非ス斥カクマ  
テ天下ノ財粟ヲ傾ケテ應接スルニハ及ハサルトナ  
ルヘシ今日廟堂ニコノ弊ヲヨクシロシメシテ韓聘  
ノ期ヲ姑ク停メサセラレタルハ恐ナカラ寔ニ有リ  
夕キ御下ナリシカシ最早有來リタル故事ナレハ今



更關ヲ閉テ謝絶スルモイカミナルヘク數年ノ後ニ  
ハマタ是典ヲ舉サセ玉フヘキアララン然ラハ舊式  
ヲ大ニ變シ治道侯國ノ疾苦トハ成ヌヤウノ御處置  
モ定テアルヘキ御事ト俯伏シテ待ノミ  
一朝鮮ハ武力ヲ以テ我ニ加フルトハ所詮ナラサル  
故文事ヲ以テ來リ凌ントスルト寔トニ新筑州ノ五  
事略ニ論セル如クナルヘシ因テ我邦ノ學ニ暗キノ  
虛ニ乘シワカ知サルヲ欺テ道中ノ鹵簿ニ巡視ノ旗  
清道ノ旗令人旗ナト建ルト無禮ノ甚シキモノナリ  
巡視ハ領内ヲ巡見スルナリ我邦ヲ渠カ屬國トシテ  
使者ヲ遣シ巡見スルノ心ナリ清道ハ道筋ヲ掃除セ

ヨトナリ沿道諸侯ノ丁寧ナル掃除接待ヲ忝ト謝ス  
ヘキナナルヲ卻テ使者ノ道筋ヲヨク掃除セヨト命  
スルハ何トソヤ令ノ旗ハ我日本ニ號令スルホトニ  
ヨクキケトノナリ清國ヨリ朝鮮ニ使者ノユク時  
ハ定メテカクアルヘシソレヲ渠ヨリ我邦ニ施シ公  
然トメ我ヲ辱カシムルト憎ムヘキノ甚シキモノナ  
リモシ近年ニ聘使ノアラハ前方ニ移書シテコレ  
ヲ詰責シ悉クコレヲ改メシムヘキモノナリカミル  
不遜ヲ見ノガシテハ上モナキ國耻ナルヘシ外ニ正  
徳年ニ新筑州ノ裁抑セラレシト品ミアリテ往々事  
宜ヲ得タレトモソノ後又舊ニ復シタルトモ多キヤ

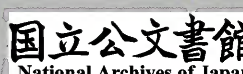


ウニ覺ユ是ミナ修舉アリタキモノナリ筑州ノ時ニ  
 ハ下乗并ニ御回書ノ下ナトサシカミリテ強テノ裁  
 抑ニテ手荒キ勢モアリシソレ故聘使ハ歸國ノ上ニ  
 テ使命ヲ辱ムルトテ皆罪セラレシト聞及ヒタリ是  
 ハ戰國ノ時ノ使命ノ角目立タル姿ニテ善隣ノ美意  
 ニ背キタル處アリトカク素定ノ所大切ニテ何レ  
 彼方ヨリ得心ノ上ノ下ナルヘシ旗ノ下モ右ノ如ク  
 ハ申スモノミ詰問センニ渠ハ陳シテ清道ハ行列ノ  
 前驅ノ者露掃ノ心ニテカツテ掃除ヲ命スル心ニ非  
 ス令ハ我一行ノ人家ニ令スル時ノ用ニモタスルニ  
 テ外國ニ令スルニハ非スナトイハミクルシカラス

トモイフヘケレモ何分ニ巡使ハ罪ヲ逃ルミ處ナカ  
 ルヘシコノ無禮一ツアル故其外モ心元ナク思ハル  
 モシイヨミミ右陳スル所ノ如クナラハ前驅ノ者實  
 ニヨク露掃ヲツトメ又一行ノ人衆モ再三ヨク令シ  
 才キテスムヘシソノ旗ヲ我邦域中ニ翻シテ我人ニ  
 見スルニハ及ハサル下ナリ既ニ翻セハ別ニ意アル  
 ニ似タリ况巡視ノ旗ト同シク翻スニ於テヲヤ  
 一韓使ハ文事ヲ主張スル故隨分文才ニ秀テタルヲ  
 撰サシコスト見エタリ故ニ沿道客館ニテ侯國ノ儒  
 臣ト詩文贈答筆談ノ下多シコノ方ノ儒臣多キ中ニ  
 ハ文才ノ長セ又モアリテ我國人出色トナラヌモマ

見エテ残念ナリソレハサテオキ又三都二八八平  
 人マテモ手寄サヘアレハ館中二人テ贈答スルニ官  
 禁モナケレハ浮華人徒先ヲ争テ出ルヲニナリ館中  
 雜沓シテ市ノ如ク粹文惡詩ヲ以テ韓客ニ冒觸シソ  
 ノ甚シキハ一向未熟ノ輩百日モ前ヨリ七律一首々  
 ウノ詩荷ヒ出シソレヲ懷中シ膝行頓首シテサシ出  
 シ一篇ノ和韻ヲ得テ終身ノ榮トシテ人ニ誇ルナト  
 笑フヘシカミルヲナレハ韓客ハ諸人ヲ蔑視シ數十  
 篇ノ詩ヲ賜ニ和才キ筆ニ任セテコレヲ和スルニソ  
 中ニ聲律千カヒ韻人マ千カヒタルヤウノ詩アレハ  
 墨ヲ付テ投出シ返スヲ廣坐ノ内ヨリニシリ出テ拾

ヒトリ懷中シテ退クナト見苦キヲノ限リナルヘシ  
 又韓人ノ和詩ヲ書スルニ文鎮ノ代リニ脚ヲ投出シ  
 躓ニテ紙ヲオサヘルナト狼藉至極ノヲナルヲ有力  
 タカリテ頂戴スルモアリイツレモ我邦ノ大耻寔ニ  
 苦ミ鋪フナリ愚ハ寶曆ノ囀ノ時客館ヲ見物ニ往シ  
 ニ唱和ノ始マリテアル席ヲ通りカミリ右ノヤウス  
 ハマノアタリ目撃セリ苟モ志氣アル者誰カ此輩ト  
 伍ヲナシテ贈答ニ出ヘキヤ故ニ夕マニ正學真才  
 ノ人アリテモ是ヲ愧テ初ヨリ韓人トハ聲息ヲタチ  
 タリ韓人ハ是ヲ知スソノ接スル所ハ往ニ右ノ如ク  
 ナレハ渠ヲシテ日本二人ナシナト云ハセニ下ハ



實ニ歎スヘキ也。皇子テ聘使アラシニハ兼テ令ヲ  
降シ沿道諸侯ノ儒臣ヲ蒞廣ニ都下ニ召サレソノ文  
詩ヲ達方ノ人ニ改サセ格ニ入サルハ停ラレ驛次ニ  
テ贈答ヲ望ム者ハ其格ニ入タル儒臣ヨリ改メ三都  
ノ平人贈答ハ禁セラレタマヒニ才子有テ文稿ヲ  
獻シ自ラ請モノハ儒臣ソノ外官吏以下ノ文才アル  
人ニ命シテ改メマノアタリ席上ノ作ヲモ試ムル程  
ニテ官許アラハ韓館中ヘ靜カニユルミト贈答筆  
談モ出來テ韓人モ我邦二人アルヲ知リ襠ヲ斂メ  
テ輕忽ノ態ヲ止ヘシコレ詞藝ノ末事トイヘ氏外國  
ニ對メ我日本ノ耻ヲ洗雪ムルハ大ナリトスヘケレ

ハ官ヨリ忽セニサセララルヘキニハアラヌカシ前後  
ニテ正徳ノ唱和ホト盛ナルハナシマコトニ日本  
ノ出色トスヘシサレ氏ソノ時ハ天下ノ人材ヲ江都  
ニ集メサセ玉ヒシ御事ナレハ沿道驛次ハ寂寥タル  
一ナリシヤ正徳年他所ニテノ唱和集ト云モノハ聞  
及ハズ其耻ヘキト多アリシカモシラス今日ニテハ  
正徳ホトノ盛事ニハ及ハストモ其カハリニ沿道盡  
ク人ヲエラミテイツ方ニテモ日本ノ尾ヲ出サヌヤ  
ウノ處置アリタシト希フノミ  
一韓人來聘ハ隣交ノ禮ニテ欠ヘカラサルノヲナル  
ヘケレ氏今日ニテハ大ニ兩國ヲ疾シムルヲニナリ

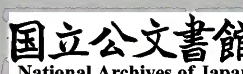
タレハ互ニ省略シテイカ程事ヲ殺テモ隣交ノ禮サ  
 へ立タラハスムヘキトナラハ先儒モ論セシ如ク彼  
 方ヨリ崖ノ人数ニテ對州マテ渡シ國書聘物ハカリ  
 ヲ受取テ上達シコノ方ヨリモ御返簡并ニ酬幣ヲ對  
 州マテ遣サレ相ワタシ雙方凡對州切ニテ禮ヲ畢テ  
 使者ヲ返サセラレハ是ニテ事スミ彼方ニテモ大ニ  
 悅フヘク官ニモ大ニ經費ヲ省天下ノ諸侯億兆ノ民  
 マテ永ク肩ヲ息フルコナルヘシ是ハ誠ニ最簡極便  
 ノ方ノ一ツヲ設ケテ云フノミ何分來聘ハ御一代ニ  
 唯一度ノコナレハ格別ニ厭フヘキニモ非ス侯國ニ  
 テモ取タカヘテ馳走ノ過タルニ心付アラハ大分事

ヲソキサシテ民ヲ勞セス財ヲ傷ラヌ仕方イカ程ト  
 モ有ヘシ全體韓人ノ人貢ハ禁廷ニ上表メ日本國皇  
 帝陛下ナト認タメ返簡ハ翰苑ノ諸公起草ノ敕答ア  
 ラセラルヘキ事是古式ナリ上古ハ八十船ノ歲貢ヲ  
 修メ鞭撻ノ誓ヲ守リシ屬國ナレハカクアルヘキコ  
 ナリ是ヲ國家ノ大體トスサレ凡喪亂ヲ經テ乾綱頽  
 廢ニ皇威衰細ニ就タレハ再ヒ右ノ跡ヲタトルヘク  
 モアラヌヤウニナリ來リ物換リ星移リ當御代ニ及  
 ヒテハ前代人過舉ヲ彌縫セサセ玉ヒ好ミヲ修メ倂  
 ヲ返シ韓國ノ山河殘破ノ後ヲ枕ヲ高クメ臥ノ日  
 アラシメ玉フハ深仁厚澤渠モマタ心ニ銘スヘシサ

テ絶域ノ韓人ヲシテ萬里梯航メ來ラシムルハ御代ノ御威光寔ニメテタキナレ氏古夫以テ考レハ千載屬國タル小夷ナルヲ時勢トハ云ナカラ隣交ヲ以テ抗禮セシムルト十分ノ素望ニハ非サルモノナリコレ對州切ノ簡便ノ策ノ由テ起ル所也サレ氏急ニハ行ハレカタキ勢モアルヘキナレハ今日猝カニ然ルヘシト云ニハ非ス姑ク録シオキテ來者ニ告ルト云ノミ

琉球ノ事ハ...  
琉球ノ薩摩ニ附庸タルト足利氏ノ時ニ始マルト伊フ御當代ニ至リ薩ヨリ征伐平治ノ功アル故ニ古例

カタミ、附庸ニ下シ賜ハリタルハ餘長ナキ御下成ヘシ、カシコノ海門一ツヲ啓ケシヨリ奸蘭ノ害甚シキヲニナリ來リタリ元來琉島ハ華域ニ通セス全ク我屬國タリシ故器服モ言語モ大氏吾國ト同シキニ明ノ時ソノ封冊正朔ヲウケテ始テ互市ヲ彼ニ通シ清國ニナリテモ同然ナリ是ハソノ初メニ薩ヨリ謹責制止アルヘキヲナルヲイカニアリシヤ其已來我國ト華域トニ兩屬スレ氏諱テ沙汰ヲセス三國ニモヨク知テ知ヌ顔ナリ又互市ヲ好ム國故ニ國產ヲ二國ニ通スルハ元ヨリノトニテ我國ノ貨物ヲ清國ニ轉シ清國ノ貨物ヲ我邦ニ漕スレハ兩屬明白ナル



ヲヤハリ知又體ナルハ二國ミナ私ニ利スル所アル  
 故ニヤ互市ハ薩藩ノウケ持ナレハ年々イカホトノ  
 蘭出アルモ概量スヘカラス官ヨリ夷ヲツカハサレ  
 平生伺察アルコナレハ大藩ノコナレハ定メテ行届  
 キカタキコナルヘシ又一説ニ崎港ニ湊スル外船ノ  
 分一ツ途ヲ枉テ南洋中ニ泊シテ遙カニ琉薩ノ姦商  
 ヲ招キ海上ニテ頗ル互市シノチ崎港ニ着スルコ常  
 ナリトイヘリ流傳ノ説故實否ハシラ予ハ萬一果メ  
 然ラハコノ蘭出又ニ限ナキコナルヘシ崎港ノ奸商  
 ヲ官ヨリイカホト嚴制アラセラレテモ南海ニ官鑰  
 ナケレハ如何任シカタキモノ存セリ新筑州ノ公私

亡失スル三金ノ夥シキヲツモラレシモ豊肥西母ノ  
 一路ニ就テ算セラレシナリコノ薩藩南溟ノ一路ハ  
 初ヨリ牙籌ノ外ニアリモシコレヲ併セテ算セハ廿  
 ラニ夥シキコナルヘシ何トソ薩藩ヲ詰責告戒アラ  
 セラレ監吏ハ今少シ重キ人ヲ遣ハサレ手廣ク糾察  
 シ又琉船ニソノ國産ハカリニテ決メ華物ヲ載ヘカ  
 ラサルノ旨嚴命アリ着岸人トキ薩人ト立合吟味ヲ  
 遂ラレモシ一品ニテモ華物ヲモタセタラハ琉人ヲ  
 曲事ニ處セラルミカ貨物ヲシテ皆燒棄ニナルカ或  
 ハ盡ク官ニ没收シ空船ニテ追返サルミナトアリナ  
 ハ姦民ノ類ミナ始テ屏息メ蘭出人害モ消弭スヘシ



或人茅議雜篇二ハ黒沙糖ヲモ禁スヘキノ議ヲノセ  
タリ是亦理アリ

蝦夷ノ事

一兩年前蝦夷ノ騷動ハ何故ナリシヤ遠境絶域ノ事  
故シカトハ知サレトモ流傳ノ説ニハ我商船ノ往テ互  
市スルモノ年來昏昧ノ夷人ヲ欺誑シテ厚利ヲ貪リ  
タル姦計次第ニ甚シクナリツヒニ發露シテ夷人憤  
怒シタルヨリ出ルトイフ定メテサアルヘキコナリ  
コノ姦商ノ下ハ官ヨリモ松前ヨリモ兼テ掟アルヘ  
ク又互市ノ湊ニ官吏ノ莅ミテ糾察スルモアルヘシ  
邊土絶域ノ下故カタハカリニテソノ法忽略ナルト

ニヤイカク我邦ノ米一升酒一升針一本ツミヲモテ  
乾麩數十本ニ易ルナト聞傳フ何分大利ノアルコトナ  
レハ随分裁抑シテ夷人ノ悦服スルヤウニアリタシ  
今ノ蝦夷ハ古肅慎ノ地ニテ肅慎ヲ俗ニ赤蝦夷トイ  
フ赤蝦夷ヨリタシニミ、蝦夷ヲ蠶食シ并吞スルトイ  
ヘハ今ハイカニナリシヤ何フン終ニハ皆併サルヘ  
シ又ウスコヒヤ國強大ニナリ東北數十國ヲ併吞シ  
カ子テ蝦夷ヲモ伺フト云ミナソノ實否ヲ知スイツ  
レ蝦夷ノ地ハ既ニ松府ノ啓ケシ上ハ其餘モ我邦ヨ  
リ綏撫シテ手ノ届クヘキ程ノ所ハ内附セシムヘキ  
モノナリマツ官吏ノ物ニ心得タル人ヲ募テ互市場

相傳爲難言 韓者危言也  
ニワタシオキ我商船ノ厚利ヲ貪ルヲ堅ク制シ夷人  
ノ愧ニテ互市ニ就ヤウニサセハ事モヨク辨シ商船  
モ後ニハ卻テコレヲ利トスヘシサテ夷人ノ悦ヲ所  
ノ米酒ヲ嘗鼓ナト次第ニ多ク渡シ稻ハ出來サル  
地ノ由ナレハ黍稷粟稗大小豆ノ種ヲワタシ農具ヲ  
遣ハシ耕作ヲ教ヘ野菜ノ種ヲ渡シ國字ヲモ習ハセ  
居室衣服器用マテ追々我風ヲ學ハセ初メニ暫クハ  
年數骨ヲ折テ世話ヲヤキ告諭セハ夷人モ次第ニ相  
傳ヘテ甘從スルモノ多クナリ段々手ヲ廣クシソノ  
上ニテ府ヲ開キ益々招徠セハ夷壤ノ東邊ハ往々我  
ニ歸スヘクシテ海産夥々シク輻輳シ以テ天下ノ民

用ニ便スヘク或ハ東陞凶饑ノ備ヘモ厚クナリ又ハ  
崎港ノ外船互市ノ料モ饒カニナリカタニ以テ國  
家ノ大益トスヘシ又伊豆ノ大島八丈島隠岐佐渡ヘ  
ノ流人ノ内ヲコミニ流シテ夷民ト雜ハリ居ラシメ  
共ニ耕作漁獵サセ我風習ニ從カハシムルノ便モア  
ルヘシ尤此輩流罪ニナルホトノ者ナレハミナ大姦  
惡ニテ夷民ノ頑昏ヲ見スカシ大ニ欺瞞侵冒スヘク  
レハ又事モ起ルヘキナト云人モ有シカナレ氏是ハ  
官ヨリ強ク制シ又夷民ニ喻シ流人ノ分ニ姦アラハ  
勝手ニ打殺シテ禁大ナルヘシ但シ姦人ノ姦ヲスル  
ハ必竟服食聲色ノ欲ヲ恣ニセントスルガミ絶島殊

皇朝通志卷之二十一 七十一

域ニテカホト大利ヲ得トテモ何一ツ慾ヲ恣ニスルナラバ子ハオノツカラ惡念モ消化シ我土ニアル如クニハアルマシムルハサテホキテ遠裔海外ノ地カカ久遠カントスルハマツハ大ソウナル下ノヤウニアル也往古我域中東北陸ノ蝦夷ヲ征セラレントテ日本武尊ノ東征ヨリ以來前九年後三年ノ役マテ千百年ノ間ハカバカ師旅ヲ勞シ功カヲ費ヤシ財粟ヲ傾ケタル下ナリシニ終ニハ悉ク平治シテ皇風興ヲ未マテ及ヒタリシレニ比スレハ松前ノ先神ノ世亂ニ乘リテ夷域ヲ切開カレシハ遙カニ容易ノ下ナリケテ今泰平ノ餘カヲ以テ互市ニツキテ

綏懷ノ法ヲ施シテハ至テ易キ方ナルヘシ但シ往古ノ征討ハ我域中ノ事故イカホト功カヲ費ヤストテモ芟除蕩平シテ我版圖ニ歸セスノハヤムヘカラサルト也今ノ蝦夷ハ域外ノ下故是ヲ秦皇漢武ノ邊ヲ開キタル如クスヘキニ非スタニ互市務ヲ置テ管轄スルハカリノ下也モシ北狄ノ寇大ニ至ル下アラハ府ヲ撤シテ引取テスムヘシ何モ國ノ耻トスルニハ足ヌ初ヨリ屯戍ヲ設ケテ夷壤ヲ衛ルニ非サレハ引取テ何モ卑怯トスヘカラス又絶域ノ下ナレハカニル時應援ヲ議シ我國ヲ勞メ其地ヲ爭フナト云フハ決メ有ヘカラス蝦夷モ少外狄無奪ハレタラハ又ソ

和漢三才圖會卷之二  
七十三

以秋沐ヲ互市通以ヨクハ通以絶テヨクハ絶ヘシ是  
等ハ三才度外ニ才以今昔又其世有年々ナリ元戸ハ  
進戸四十五準計十又ハ氏ハ六又漢代ハ百七十ハ氏  
以天時日月ノ法ニ其ノテ更ニ其ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法  
世ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法  
天ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法  
地ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法  
人ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法ニ其ノ法  
草茅危卷之三終

